

8-5
部内資料
婦人関係資料シリーズ
参考資料第50号

協同活動についての研究会議記録

労働省婦人少年局

徳田重光の427と徳田重光

徳田重光の427と徳田重光

ま え が き

婦人少年局では第十回婦人週間の目標として「婦人の協同活動」をとりあげましたが、この問題をさらに深く究明するため、五月七日及び六月十日の二回にわたって婦人問題研究会を開催し、別記諸先生の御出席を得て協同活動の問題点についての分析検討を行いました。

ここにその要録をまとめて御参考に供します。

昭和三十三年 八月

勞働省婦人少年局

出席者

(順序不同)

お茶の水女子大学学長

朝日新聞社論説委員

読売新聞社出版委員会幹事

評論家

東京農工大学教授

評論家

東京都立大学助教授

日本放送協会婦人課長

主催者側

労働省婦人少年局長

労働省婦人少年局婦人課長

(司会)

高橋展子
谷野せつ

堀山政道
伊藤藤界
渡辺智多雄
坂西志保
大谷省三
西井清子
三井為友
江上フジ

討 議 内 容

第 一 回

協同活動の傾向について

活動の分野

参加層

社会的機能

下請機関的役割——町内会を中心として

会費について

町内会の必要性について

政治との関係について

意識の啓蒙について

陳情について

補助金制度について

組織上の問題——地域性と市民性について

指導者養成について

第 二 回

三井先生の提案

指導者養成について

全国協議会について

行政機関の授わり

指導者養成について

全国協議会について

第一回

協同活動の傾向について

司会 今日では協同活動の問題点について、フリートークングをお願いしたいのでございます

最初に 協同活動の傾向につきまして、先般来の全国婦人会議、東京婦人会議等とおし、いろいろなお感じになったと思いますが、御意見を伺いたいと思います。数字的なものにつきましては、私共が差上げた資料、協同活動に肉する参事資料、協同活動についての意識資料（でござん頂いたとも思います）が、また少し補足的に申し上げてみたいとも思っております。そうした傾向についてお話し合いをして頂きました後、指導者養成の問題、行政機関の役割等について主として対策の面からお話し願いたいと思います。

それでは、最初に傾向についての数字的なことを、婦人少年局で把握したもののについて簡単に述べたいと思います。

活動の分野について

活動の分野については文化的な面の活動、政治的な面、経済的な面の活動と分けてみますと、広い意味の文化面が活発でその中にはいわゆる婦人団体の活動が主になります。たとえば婦人の地位向上とか放養、娯楽、生活改善というものが多いうつです。

参加層について

参加層についてはいくつかの特徴があり、第一に非常に大きな層が参加していて、高い組織率といふことが言えるようです。全国的にみますと（婦人少年局の調査による）全国の二十才以上の婦人の六三%以上が、何かの組織に参加しています。それは市部の方がやや低くて六〇%、郡部が六六%です。これは有権者の二十才以上の婦人の面から見ただけです。今度は団体の会員という側からとりますと、延三千二百万の婦人が何かの団体に参加してあります。地域婦人会に七百万、未亡人会に百万、農協婦人部三百四十万、日赤奉仕団三百五十万、PTAに千七百万——延べですから一人の人が小学校や中学校と一人が幾役もやっているでしょうが、合計三千五百万、さっき申し上げたように参加している人が六三%です。それからその人が三千二百万を構成しているわけですが、

これがいかに大きいかということ、たとえばイギリスではたいへん大きな婦人団体といわれているナショナル・アソシエーション、ウイメンスクラブが、会員二万です。団体の種類としてはいわゆる地域的なものばかりの組織への参加が多いわけで、婦人の五七%が入っている。有志団体とか技能団体、地域団体に入っている人はそれぞれ一〇%以下というように非常に崩れがあるようです。

それからどの団体にしろ入っている人の年齢層は、三十代四十代が多く、五十代がそれに続いてあります。これは市部郡部に変りがないようです。

高等小学 中学 高校卒業の学卒の入は参加率が高く、大卒出の春の方が参加率が低い。

これは団体の中の構成ではなくて、国民の……個人の側から見たものです。振業別では、農業に本人ないしは夫が従事している人が組織されている率が高く、婦人少年局の調査では七六%、無職の人へいわゆる奥さんへは五六%となっています。

市部というのは大変広くこの中でも最も組織率が高いのが農業をしている人ということになつております。

参加のきっかけは、みんなが入るから入るといふのが一番多い。たとえば町会婦人部については、三三%の人がそう言っております。町会といふものの問題はそこにあると思います。それからまた婦人会も六〇%の方が、農協は六四%の人がみんなが入ることになっているから入るといふており、すすめられたから入つたといふものもあります。自分から進んで入つたのもあるが、これは少なくて、有志団体の場合は三四%ありますが、ほかは二〇%、一〇%に満たないところがあります。いわゆるおつき合ひで入るといふことがたいへん多いようです。

社会的機能について

その次に社会的にどんな機能を果しているかといふ問題を挙げてみたのですが、これは団体の存在、働きというものがどういう傾向かを、活動の分野といふこととは別にして考えてみたわけです。私共で把握した傾向としては非常に行政の下請、機能的な役割を果していることが多い、といふことが一つです。町内会的な役割、特に町会婦人部といふのは全くその通りで、区役所の中からおろしてくる仕事をやってやうです。

もう一美傾向として言えますことは、これは主として、外国と比べた場合に、社会的サー
ビスという役割が少ないのではないか、自分自身の利益、自分自身を含めた周辺の利益向上
のための働きが多い。具体的に言いますと、たとえば未亡人団体というものは未亡人達が集つ
て未亡人の利益を高めるための活動をするのであつて、未亡人でない誰れかが未亡人のため
の団体活動をするというのとは自ら違ひ、外国ですと後者の方が多いわけであつて、たとえば盲人や
つんばの福祉をはかる団体があるが、盲人やつんばの人が集つて団体を依るといふものでは
ない。その辺に違ひがあるのでないか、また一般に活動の役割として、実地活動といふ
よりも圧力的な活動がよく行われる。陳情、あるいはもう少し派手にデモをすることが多く
て、何か具体的なプログラムを展開するよりもそちらの方が多いといふ傾向も一般に言える
のではないか。以上がその統計的、資料的な傾向です。

協同活動の今後の方向というものについても先生方の御意見を伺いたいわけで、特に協
同活動の限界というふうな点についてもおきかせ願ふたかと思ひます。

たとえば、当然国の機関がやるべきことまでやっているという実がありますので、そうい
うことにもふれたがらまず協同活動の傾向といふことでフリーな御意見を御用陳願えたらと
思ひます。

下請機関的役わり

——とくに町内会を中心として——

坂西 一番目につくことは、役場とか区役所が、自分達で積極的にしたくないことを団体

に押しつけるということ。寄付金とか切符を売るとか、赤い羽の金を集めるとか、何でも婦人会でやる。またそれをやることによって将来自分達が望むことを相手に押しつける権利があるというふうに相互関係が出来てくる。それに風がついて、「もうやらない」という決議をしたところもあるのです。

三井　そういう活動を止めたという地域婦人会はたくさん出て来ています。山口県にも滋賀県にも。大体行政機関はそういう婦人団体を自分の町村に合併し、統合して下請機関にしないと困る。町村合併の文書を見ますと、婦人団体、青年団体の統合ということがザラザラに挙っている。「自主的に統合するよう、強かに指導する」——と書いてあります。それが見たのは伊豆の大島の方です。

司会　町内会はとても復活して、東京都で約二千五百ぐらい出て来ています。その町内会というのはみんな婦人部を作るといふのが一つのフォームになっているようです。

三井　最近婦人団体が大分自主的な動きを始め、行政機関の下請をしなくなつたということに対する一つの反対傾向的な形として町内会の婦人部というものが出て来ています。佐世保市などは、婦人会をこわすために町内会婦人部を作り、早く婦人会から抜けて町内会婦人部に入れ、そうしないと町会事務所をみんな公民館という名前に変えて、公民館長は町内会長がやる。町内会婦人部なら公民館を貸す、と言っている。

局長　婦人会をつぶすために町内会を作るといふのはどういう意図ですか。

三井　今まで婦人の票は旦那さんにくっついていたら、票読みができたのが、婦人会が出

またために婦人は自主的になつて、票読みができなくなった。それは困るというわけですが、坂西　その婦人会がそれだけ自分の票を持つたというのはえらいですね。これだけはほめてあげてよい。

△会費について

三井　会費は町会費を集めてその中から婦人部の費用　政治部の費用というようにしてゐる。

五上　団体が必要な経費は会費として会員からとるわけですから地域婦人団体の会費はたいへん多くの人から集めるから少なくて済むわけです。その会費すら農協の婦人部はとらない。会費問題でずいぶん論議が斗わされたわけです。が会費の問題は相当意識につながると思ひます。何をするかということが問題になつて会費が集められるのですけれども、おつき合ひということが入つてゐるから、あまり金を取られない方がいいということになります。会費という問題も相当今行詰りになつてゐると思ひます。

農協婦人部は農協の物を売ったりする費用が還元するから会費などは要らないという問題と、町内会みために、会費は婦人部としては要らないが、町内会費として納めるといふ問題と二つあります。

大谷　会費の問題は非常に大切な問題だと思ふ。会費を出すということはある意味で、社会組織の一部に住む役割を果すことになります。おつき合ひで入つてゐる場合にはたしかに会費を出したがるにないが、最初から会費を出せというとは絶対に組織できな気がします。

農協婦人部の成長過程を見ていて感ずるが、私は今の農協婦人部の在り方についてはたいへん悲觀的だ。最初からオンブしてはいけないということを書いてゐる。しかし段階がある。全然農協婦人部のない県をほつておいていいか。最初は組織するためには農協の事業に協力させて、何がしかのプラスがあればそれを流してやつて、一応組織を作るといふことは必ずしも悪いことではない。しかしいつまでもそれにまかっていると自主的な活動が制約されてくる。だからあるところまで成長したら自分達も会費システムにすべきだということを書いてゐる。どうしたら組織を作り、自主性を養つて、脱皮させるか、このことが問題だと思ふ。たとえば農協婦人部が昨年以來大きな仕事としてゐるのか、山代^{ヤマしろ}巴^{トモ}さんの「荷車の歌」の映画化です。農協婦人部が完全にカンパ活動をやつてゐる。このカンパが成功して映画が出来た場合に、自分達のもつというものが自覺され、その時には組織が固くなつて、今度は会費がとれる段階になると思ふ。

組織というものを結論的にいうと、最初どうして芽を出させるかということ、芽を出したらどうぞだててゆくかというふうに、段階的に進まないで、会費をとるからけしからんとかあるのは必ずとらなければならぬかということに向題があるのではないかと思ふ。向題は、どうして育てるかということにあると思ふ。

町内会の必要性について

五上 今、日本中に下請を要求するような流れ方を官庁がやつてゐるということは向題だと思ひます。たとえば赤い羽根にしても、上から下に流すルートがなければできない。街灯

をつけるとかお宮さんの費用とか　そういうことは町内会でしなくても　そういう寄合りでした方がいいのか　あるいは区役所の仕事として道を直すと同じようにして電灯をつけたらいいのか。　そうすれば税金より他の費用を取られなくていい。

西

やってくれないから自分達でやらなければいけないということが出てくるのですね。

大谷

私のところでは　いつまで経っても街灯がつかないので話し合って街灯をつけた。

防犯協会に入れれば　……　ということをやつてきたが私のところでは当番に電灯料を拂って回り持ちで維持している。自分達で負担するということが一種の抵抗になつていたので、どこから出すべきものだから当然だということにはゆかない問題がいまの場合あるのではないか。

司会

町内会について御参店までに申し上げますが、昭和二十五年五月　政令十五号が出ま

して　部落会　町内会の解散を令ずるということがあつた。それが昭和二十七年十月に失効になつて、それ以後は町内会　部落会を作つていいとか悪いとかの法的根拠はなくて、事実行爲として出来ている。ただ政令十五号というのはとてもきびしい政令で、行政官庁、地方官庁の職員以外の者が住民に対して、配給にしろ何にしろ、行政にタテ今してはいけないということが明示してあります。それは今失効しているわけですから、現在の町内会あたりが、事実上そういうことをやつていけない　とは言えないかもしれないけれども、名目は、非常に自主的なものになつてゐるようです。南くところによると、特に新南地のようなところはものすごくたくさんの方々の用事が町内会にあつて、毎日紙が廻つてきたり寄合ひがある。そんなにまで住民に強制的なこと

まかせていいのかという疑問が起きますのです。

渡辺 どが掃除 お勝手のゴミを取りにまてくれることを頼む。便所の汲取り。みんな町内会同士でやらなければどうにもならない。

どこかに一つぐらい、いい町内会があってもいいと思いますが……

坂西 私のところもあるのですが、二つに分れて、部落会というのがあつて、部落費といふのを一昨年あたりから九百円ですが、私はそれに入らない。

西 前住んでゐるときさうでした。知らない向に、お宅の町内会費はこれだけだ、とくる。「どういふわけですか」と言ふと、「どうだか知りませんが決まりました」と言ふ。

渡辺 団地の管理人が年二回とにかく細めてゐる。

五上 うち 町内会という意識がはつきりしたのは、今度アパートに引越してからで、始めて町内会の会費というのを割り当ててきた。聞いてみると隣り近所出すところもあるし、出さないところもあるのだ。うちは集団だからちよつと値切つたようです。うちの近所の荷灯は全部私達が個人で持つてゐるわけですから、町内会は何をするのだと聞いたところが、やはりお祭りのときに寄付を取りに来ないとか何とかいふことで……結局何に使われているのかというところ、本来の目的には全然使われていないので、さういふことに使われていることが多いようです。

伊藤 お祭のときと、伊勢神宮とか明治神宮の寄付、それから赤い羽根、さういふ時には何か町内会の世話役みたいな春が回ってくる。毎月はこのやうと思ふ。

大谷 戦後私の近所の小学校の先生が中心になって、デンマーク体操を指導してくれた。そのグループが中心になって研究会を始め、そのうちデモクラチックなPTAをつくった。そこで啓蒙運動をずいぶんやると同時に有志が懇談会というものをやった。それに続いて「明るい生活会」というのが、環境衛生をやつてゆこうというので、ゴミの処理等を明るく生沽会の名において区役所に頼む。そうしてとうとうレベルに乗せてしまった。会費も多くなかった。街灯を立てるのも、自分達の負担においてやつた。完全に自主的なものです。

五上 昔の隣組みたいに毎月集るとか、時々呼出しがあるとか、また別にびっくりするほどの実害というのではないし、涙取りのことで区役所に一人一人で行くのが面倒ならば町内会に行つて頼むと、万事チヨコチヨコやつてくれる。そういうところでフワツと広がって、その中にどんな実害ができるか、先のことは分らないが、できてしまったのでしよう。

大谷 私のところは涙取りがなくなるとじかに区役所に電話掛けて、ラチがあかないと個人で行くのです。

西 面倒くさいから、誰かやつてくれるから、三十円か四十円で事が済んでいるから、経済的にもどうということないから私の地域なんか無関心だ。

大谷 それが問題なのです。たとえばね、PTAにしても、私達が忙しいから出られないと積極的に参加しなければ後援会的なものになつてしまふということを体験して考えさせられた。だから手を抜いては、いけないということなのです。

坂西 問題をしぼりますとこういうことになるのではないですか。町内会の婦人部という

ものが結局昔の愛国婦人会ですか国防婦人会みたいなものになつて、ほかの団体がだんだん影が薄くなつてゆく、そういう傾向にある、そういうことについてまじめに考へなければならぬ。

西 この向、婦人会の役員をやっているおばさんが言つてましたが、婦人会の仕事をするなら町内会では援助しないというが、どうしたらいいか、故養を高めることを婦人会でしたいが、と困っている

伊藤 その向題は、全国婦人会議の才一部会ではっきり出ていました。ある人が自分の地域の婦人会は巧くいつていて、町内会と一語になつた。すると町内会費と婦人会費と別々に納めていたのが一本になり、町内会費と婦人会費二遍拂つていたのが一遍になつてしまひ、少し安くなつた。家庭の主婦は非常に喜んでゐる、と言つたら、みんなが、うそれはおかしい、と言ひ出して、婦人会の活動をするときはどうするかと言つたら、婦人会の幹部の方が町会のお金をもらひに来るといふ。それでは自主性がなくなつて、自分達がしたいこともできない場合もあるのではないか、その人の地域は住宅地でそうできるかもしれないが、東京で町内会をみてみると、大体商店連合会で、区会議員の選挙地盤といふことははつきりしている。そこへ婦人会がくつついたら、こんなおかしいことはないといふ。

大谷 私が抵抗を感じたのは、組織者の顔ぶれからきた。

伊藤 もう一つ、東京の場合には誓京母の会が向題ですよ。

近上 町内会は実害がないように見えるといつたところで、われわれみたいになつた人

向がそういう事実は、地域にないと思つていても、よく調べたらとんでもないものがあるといふこと。もう一度私等は情勢判断としてもやつて、自分達の身の周りの地域の向題として、もう少し知らなければいけないと思ふ。

西　そう云えば私、思い当るものがある。この向町内会で文の人はかり旅行しようといふ回覧板が回ってきた。私は行かないから、「あ、そう」と回してしまつたが、それなどはくさい。

政治との関係について

伊藤　戦後特に保守党の票が多くて、婦人まあくみていた傾向があり、ボスの持つてゐる票でゆけると思つたら選挙のときに狂つてきてしまつた。それは婦人会が自主性といふことを言つてゐるかららしい。といふので、二二四五年、婦人団体に向心を持ち出した。これが文部省の社会教育の指導方針を変えさせ、政治を一生果敢研究しようといふ熱が中立性といふ名目でだんだんそがれてきてゐる。

政党の婦人部といふものが特に保守党は積極的になつて、ところによつてははつきり町内会にくつつけて票読みになつてゐる。

近上　文の人の票は馬鹿にならないといふことに男が気が付いた。そうしたら積極的に特定の政党がその婦人団体を抱え込むとする。そうすると婦人団体の数といふものが非常に優遇されるわけです。丸抱え風にかげではなつてしまふ。そうすると今までみなかつたおもちやのよくなものを渡されたから、面白くてこたえられぬ。いわゆる政治的といふより

も政治屋的になつて「わたし達は何も持っていない」ということになる。そこで、圧加を
んとうにかければいいが、それがほんとうの政治的の圧力にならないで政治屋的の行動にな
るから、街のボスとあまり違わなくなつた。現実にそういうことを公言している人は地方で
みた。

西 中国の婦人代表團が来ることになつていたので、選挙でめびたが、地方で動き出すと
大阪あたりは、延ばしてしういたいという声が出ている。選挙が始つたら、選挙のことで婦
人團體がわあつとなつてしまつた。

二井 最近に入党ということはありませんで、誰々の後援会に入つてくれというようになつて
いる。

大谷 全国婦人會議や四部会で政治の中立性の問題が出て、中立化というのは何かという
問題が出たが、これはいつでも地方の農協婦人部や、青年団の問題になることです。特定の選
挙になるとそれとある程度党派性をもち、やり過ぎて、あと困つたというものが出てくる
わけですが、選挙の時に選挙運動をするから困るので、選挙の時に選挙運動をしなくても済
むように日常の活動が大事なので、それが団体の中立化ということの実体だと思ふ。

や四部会では個人が政党かという問題については、村の段階では個人だ、上にゆくほど政
党、特に国会になると政党だということが大部分の人の常識だったが、今の段階では正しい
結論として見ていいと思ふ。

司会 東京で三年前の総選挙の時に、自分で決めて投票したかと聞いたら、東京の女の人の

は九五％は自分の意思で投票したと言う。それではあなたの投票したのは保守政党でしたか
革新政党かと聞くと、どっちか忘れたと言うのが四割あります。だから自分で決めるにもし
ういろあるので、根本的な、どっちの政党に入れたか知らないで入れているというのがあり
ます。

伊藤 組織を作って動くという時に政治はこわいものという感じがこゝ、一二年急に出
て来ている感じがする。

西 つまり政治がこわいということとは自分達は政治は語らない。先生からどうも政治の
向題を最後に言つて下さいという注文がどこに行つてもある。婦人会長さんあたりが言いた
いが、それを言い出すとその土地で逆襲がくるから自分は言えない。いざこざをやめなさい
ということも政治的な啓蒙も、何かそういう一つの整理役みたいなものにわたし達が動員さ
れてゐるようです。

伊藤 そこには中央から一人の人間が来ているから、何か方向を与えられないと自分の頭
がわからないという自信のなさがある。

大谷 それともう一つ、〇〇先生もおつしやった、というのを持ち回ろうというのがある。

三井 役所が団体の活動について調査をやる場合、文化活動をどのくらいやっているか、
政治活動をどのくらいやっているのか、というふうな聞き方をする。文部省の言う社会活動、
政治活動も実質にはからみ合つていてみな同じものだ。政治活動、経済活動にからまつてこ
ないものは一つもないのに、そういうふうに調査するから調査を受ける方でも、最近文部省

は献養活動を重ねてゐるらしい。政治活動はどうも嫌うらしい。ということになって、か
えて分類して箱に入れる動きになる。

西 三年前の選挙に私は愛知の知多半島に行った。愛知県の実婦連から脱退したところ
です。そこでさっきから問題になっている「自主的に投票しましたか」という意識調査を
婦人団体がやった。たいへんな仕事ですが、やり遂げたらしいが、それに対して、選挙管理
委員会からえらい叱言がきた。そんなことを調査する必要がないというのです。

意識の啓蒙について

伊藤 私が婦人会の協同活動の問題で気が付いたのは、都市のグループ活動をやって来た
連中で全国婦人会議に出て来た人を見るとさきほど文化的活動の問題が多いといわれたが、
そっちが弱過ぎる。婦人の意識をしっかりとしなければならぬという勉強がすっかり忘れ
られてゐる。会議員の一人が、「洗濯するよりもグループ活動で勉強するのが大切だ、その
意識を欠くわけにはいかない」と一生懸命言うが、他の人はそれが分らない。ほんとうに民
主的な人間になろうという勉強。戦後の四五年文部省が主唱してきた線がすっかり引つ
んだということ。一つのグループ活動の欠点だった。そうして、やっぱり生活改善、託児
所とかいって、政治の方に意識がいかない。生活改善されて技術を覚えて、それ以上進まな
い。託児所が出来たら次に何をやりましようと思える。それが婦人団体の具体的な活動だと思
い込んでゐるということを感じました。

家計協運動にしても、家計協をつけることによつて生活のぶつかる社会的な矛盾というも

のに入つてゆかない。

陳情についで

坂西 全国婦人会議が三部会でほとんど全部の人が報告をしたり向題として取り上げたのは、何んでもかんでも 陳情すれば出る—ということでした。

ことにひどいのは ある県から出て来た人で、身体障害者の話を新聞で読んで、これはいのことだと思つたから知事夫人に相談したら 知事夫人が早速陳情室に連れて行つてくれた。知事夫人が賛成してお金を出してくれると堂々と発表をしていたが実際は 何もしてない。三井 陳情ということでは悪いことではないが、陳情以前に どれだけみんなが自分のものとして話し合いをしたかということが向題だ。

西 話し合いがなされないと時には間違つたことをとりあげることがある。埼玉で非常にいい婦人週刊をちやりになつたが、最後の集會に 結婚相談所を県の予算で作ろうということと、もう一つ長沢泥の向題についで、積極的に 夜間中学を設置してほしいという発言をした人があつた。学校の先生がびつくりして、そういうことは困る、と言つていた。

大谷 陳情も結構だというお話しだが、場合によってはやむを得んと思ふが、私共の見てゐる農村の面体の場合に代議士を先頭に立てるところがある。これが向題です。つまり政治というものを理解させなくする重要な契機心になつてゐる。最大の啓発活動が投票だということと忘れさせて あつた。陳情運動が政治活動だというふうに考へてしまふ。だから陳情

というものがデモクラシーというものの根本的な基本的な限度を忘れさせることが一番大きな弊害です。それからいつも言うことですが、大体農村の場合には郷里から出ている代議士を先頭に役所を訪問して歩く。すると代議士も陳情にゆく時には局長、次官とかにいいものいんかんでいいのをきかぬ。すると代議士よりもお役人の方がえらいという錯覚をもつ。そして代議士は便利屋で、祖国の運命を左右するものでなく、地方の利益の代弁者であり、そうして仲介をしてくめる便利屋だから、便利屋に資格な者を選べばいいということになる。陳情というものは民主政治を阻んでいる非常に大きな癌だということをはつきりさせることが必要と思う。

渡辺 しかし陳情の話し合いは結局いまの会長やその団体のリーダーだけがやっているのだ。ここにも、会員大多数の意思で陳情してるといふのはない。またそれくらいで解決されるようなことはまだほんどうの問題ではないと思う。会員の大多数がどうしても解決しなければならぬときには陳情などというなまやさしいことでは決して民衆は動き出さない。ほんとうに婦人の団体組織というものが女の人の自覚で盛り上っているなら米騒動がおかみさん達のエネルギーを持つと思うが、この組織にもそういうものはないでしよう。

大谷 いま言ったことは、つまり陳情害悪論で、たいへんな害悪を及ぼしていると思う。それは村の人が全部陳情に来るといふことではないが、教人のボスが行くということだけでも村の中にその効果が流れてゆくということ、害悪が出てくると思う。

坂西 全国婦人会議の会議員の人の話で、非常に道が泥んこでどうにもならないので、こ

の人は数人の人を集めて自分で出て行つて道を直した。ところが水はけが悪かったのでまた元にもどり みんなが何回もやるので 見かねて村が金を出して作ってくれたという発表があった。本当に困れば、みんなが動き出してきます。

大谷 いま問題は どうしたら陳情などに頼らないでいまのような行動活動を育ててゆくかというところにあるのであつて、そこに行く道筋が問題ではないですか。

補助金制度について

五上 もう一つ ちよつと飛躍するが 陳情する場合は必ず助成金などがまわっている。日本では 補助金・助成金制度というものがあるから陳情したくなるわけです。その裏で両方から合っている。陳情の相手がある、しかも相手に何かあるかというところ。そういうものを持つてゐる。

大谷 実際に動きがあるから困るのですよ。補助金を獲得する奴が今度選挙の際の票を握る。そういうことが日本の民主政治の発育を阻んでいる。

伊藤 官庁は補助金を握っていますからどうしても官僚国家になる。

坂西 有かな顔のきく人が頼む時には代議士は動いてくれるが ほんとうに困つてどうにもならなくて首を吊ろうか、という人がいつでござんなさい。ソツポを向きます。だから私

が言うのはそういうふうな馬鹿な者に頼らずに社会福祉法というものを自分達のために打ち立てるといふことですが、そこまで罷躍してくれないのです。

大谷　そこまではちよつとわからないでしよう。とにかく一切の問題は補助金で解決するという考え方ですから困ります。

五上　極論ですが——婦人会であなただの区で選出された代議士があなた方の近所の道を直しませんでしたか。この代議士はぐうたらだから戻をつけたさい。それからあなたのところの橋が補助金で直らなかつたか。そういう仕組になつてゐるけれども、そのために何度も何度もあなただの郷里に帰つて来て大平な国の政治を留守にして自分の家のことばかりやつてゐた。つまりお勤めに行つてゐる人が自分の会社の仕事をあつぱり出して自分の家の合所の米びつばかり勘定してゐるから怪しい。奥さんの立場から言えばお米の心配をしてくれる旦那さんはいい旦那さんに見えるが、会社では何してゐるかわからない奴だから……とある人が言つたら、みんなびつくりしてゐました。

協同活動そのものが、どれだけ個人個人を強めてゐるかという目安を、どの会員ももうすこし持つようにはしなければいけないと思ふ。

組織上の問題——地域性と市民性について

司会　協同活動の組織の傾向としては地域的なベースのものが多いが、このことはない意味で市民意識の阻害になつてはいないか、——ドブ掃除も結構ですが、要するに自分の家のドブをきれいになりたい、そのために隣のドブが詰つてはだめだからやるといふ状態でした。

たとえば東京のスラムの汚いところを協同でやろうというのではない。地域単位というものは一見社会協同ですが昔からの部落共同体にすぎなくて近代的な市民意識とは一線を画していると思う。

大谷 それは非常に大きな向題です。初めの方は少し飛躍があり過ぎる、つまり教後における新しい教育といわれるものが、自分達が感覚的にまずふれる向題、その具体的なものの中から一般性、具体性をつかませるということだから、自分達の身近な活動を通じて矛盾を感じそれによってさらに活動を促進する。そのためには指導者というものの役割が必要になってくる。

司会 身近なところに入って生活をみつめることは非常に大切なことですが、その際に組織の範囲というのが一つの生活共同体としての範囲にとどまる。そういう形だけの組織しかないというふうな意識が限定されるところに向題がありはしないかということですか。

大谷 ですから私は地域婦人団体というものに疑問を持っている。

五上 地域婦人団体に向題もあるが、それならいま出ている小さいグループが結構かというところにも向題があると思う。総合的な段階で意識が高まっているのに一つのグループの中に引き入れられてしまったということに向題があるのなら、それを細分化するということもよい。しかしその場合に、ただ小向切れにしたから巧くいったという考え方も向題があると思う。

今度はそういう細分化されたものの中から私達はどういうふうにしてそれを発展させて行くかの向題をこゝで出しておかなければならないと思います。

大谷 さっき部落共同体ということがありましたが、たしかに戦後の分野で部落の歴史的な性格ということとは指向的にたいへんな向題で、あんまり不用意に言い過ぎると思ふが、かつての共同体的性格が残ってはいるが、質的にかなり違つていふと思ふ。しかしかつての共同体的なものを突き破ることが大事で、それを突き破るために婦人団体としての役割をどう考へるべきか。

私は地域団体そのものがいけないというのではないが、ただ細分化するということ形での表現は納得できない。つまり自発的に協同の利益に基いたものが出来てくる。そしてそれが地域全体として共通のものとして固まつてゆくという発展過程を辿るべきである。そうだとすればそのような方向に誘導するということをやるべきではないか。

西 そういう意味で、地方に行つて面白と思つたのは、今まで地域婦人会から抜けた人とか、新しく出来たグルーヴの人が浮いていたのが、婦人懇話会というような名前で見え集まつてゐる。それが特徴だつたのです。

伊藤 私もそれを言おうと思つたが、今度の会議でこういうふうに考へた。

農協婦人部の場合に、終戦後何かの機会にいい会があるからと呼びかけられて行つたが、日本の婦人が一歩家を飛び出したら、世の中は広いものだつた。これが一歩だつたと思ふ。そうしてずっとやってみたら、あんなこと言つても大して何もしないではないか、と思ふやうになり、もう一度ふりかへつてみたら、自分の家庭の周囲に向題がたくさんある。ということに気がついた。いま面さんがいわれたように、今度の全国婦人会議の第一部会に出てきた

人はほとんど小さいグループでお互いに連絡というものがちよつともない。それは一つのも
めでは伸びないし、うっかりすると仲間だけで固まって排他性を持つてくる。どうしてもサ
ークルとかグループとか、自己満足になつてしまつてゐる。そういうことを考へてゐる段階
ではないかと思う。

売春防止法などという大きな政治問題になると小さいグループに分れては手を出せない。
それで、いろいろな団体が横に連絡して大きな団体を通して協同するということにすれば
いいと思う。

三井 いわゆる向う三軒両隣りの軒並相談的なものと市民性というものは連なり得ないも
のかどうかの根本問題を解決しないで、地域の婦人会を解消する、近代化するということ
は結論が出せないから、宿題に残す必要があると思う。

坂西 結局は市民の知性という問題ですね。

三井 だから地域性というもの、それを深めながら市民性に広がつて行く質的な転換、そ
の時に、全国的な大きな集団が必要ではないか、小さなグループでやつていても仕方がない
のではないか、青年団だつてそうだ、われわれ手をつなぎましようとかやつても何にもならな
い。

大谷 ごつくばらんにいえば、いわゆる地域の婦人団体というのをこわす必要はないが、
こわれてくれることが望ましいと思う。

ある農村で、地域側がおつかがせる形で青年団を作つたが、この青年団がじやまになつて

いるという話がでている。これがつき破られなければしかたがない。

婦人団体と同じ目的意識を持った団体が出来てくるといふことは大事なことだ。それが出てくると、自然的に上からあつかがせたものはこわれるのは当り前だ。

いまの農協の問題でも、上からあつかがせたから矛盾ができてゐる。これがどこでも農協をづづりてゐる。だからそれを批判しなければいけない。それは望ましいことです。

五上　それで私はこういう例を知つてゐるのです。これは農村のお料理のグループですが、今まで大きな婦人団体に入つてゐたが、今度小さいお料理のグループを作つたら、口合ひのことですから流行つて、人数が多くなつて、ふくれとつて、自分の手ではどうにも仕方がないほどになつてしまつた。その人は、これはたいへんだ。私の能力はこれだけです。かういふので、二、三人の小さいグループにしてしまつたら初めて巧くいつたというわけですが。そうすると今度は地域婦人会に對しても、そう重荷もなく、自分達の活動を認めてもらつてゐるといふわけです。その人達がそういう實際的な経験を逼して、しかも大きなものに対して、肉俵を持ちながらやつてゐる。これはなかなか面白いやり方で成功してゐると思ふ。

渡辺　初め婦人会は大きい団体をもつて踊りか歌かで激勵して集まつてゐたが、それだけではもの足りなくて、次々に自分の周辺のわずかな人でグループを作つて、身の周りのことを解決しようといふので、協同活動が始まつた。しかし協同活動として取り上げた問題とはいふものの、まだまだ切実さが足りなで、前に婦人会でレクリエーションをやつたと同じ気持ちで協同活動をやつてゐる。

したがって、その小さいグループの個人個人が、私にいわせれば外面博愛民主だ。しかし一応レクリエーションをやっていた婦人会が、とにかく協同活動に取っ付いたということ、これは一つの過程の上で価値は認めるけれども、まだまだそんなに高い尖を上げられる値打があるものではない。結局そういうところに来る人は、大体富裕層でいかにも自分は寛裕だ貪乏だと言いつながら、貪乏だということでは自分には貪乏ではないという反対の表現をしている。そういう人がどうも多いということに問題があるように思われる。

大谷 私には小さな団体で、自分達の生活とほんとうに取り組めばその中の矛盾を解決するのに大きいつながりを持たなければならなくなると思います。だから具体的なものを通じてやっぱり大きい広がりを持たなければならぬということに自覚させることが大切だと思ふ。

坂西 けれどもこれは時間の問題ではないですか。

三井 単に時間の問題ではないでしょう。

江上 市四部会の人と話だったが、森さんの公休日を作ってその次の年には村会にかけ、村の公休日になったといったら、他の会議員が「公休日に何か行事をしていきますか」と言った。そうしたらその人が「公休日はみんなが休む日だから行事をしたなら、何のための公休日かわからない。」とピシヤンとやった。

私はこのことは非常に印象に残った。この考え方は非常に進んでいると思う。団体は何かというところをやり、大勢が寄り集まるとつい行事が何かで片付ける。婦人団体も行事をやります。

大谷　今の段階では片っ方を全然いけないうこととは言えないと思う。そこらのところをどうかみ合わせるかということが向題でしょう。

私は、農協婦人部にはかなり期待をかけている。なぜならば彼女等は全部生産活動に従事して身立を以て経済というものに苦しんでいる。あらゆるシワが彼女等に寄せられている。そこで向題に道筋をつけてやれば彼女等はやれる可能性をもっている。婦人はやはり経済と離れては自分達の生活がないと思う。だから経済から出発させるということが大切だと思う。

五上　この向題いた話ですが、農協婦人部は総農とそうでない人達とが入っているそうです。ね。総農家でない人が入り込んでやるといふことがいいのですか。ほんとうの農家でない人が口を出してやるといふのは困る。私共は口下手で、そういうことからついその人達の言いなり放題になる。それからいろいろなものを買わせられてしまふというのです。そういうわけで、農業をしない人向が実際生産活動に従事している人を指図しているという状態です。これは一つの向題ではありませんか、もう一つは、東京の近くの農協に、四、五年前に講演をたのまれていったが世話をしていた人が全部男の人だった。

司会　いまの向題との関連ですが、地域婦人団体は、男の会長が二十七人、副会長が七十人います。

三井　実質的には副会長があやしい。会長はロボットです。

指導者養成について

司会　いろいろお話しされましたが、対策としての指導者養成という方に入りたいと思いま

す。

申すまでもありませんが、協同活動を進めてゆくにつれての悩みの一つとして、技術的の向
題、リーダーに適当な人がいないとか、いろいろな声が出てゐるわけですが、実際にリーダ
ーというものの養成が必要であるという前提に立ちまして、どこでどうやって養成したらよ
いかということについてお話し願ひたいと思ひます。

西 広島のある郡でこの向小さを集りを婦人少年室がやったら、一人のお嫁さんが年寄
から何か言われてうなだれてゐる。何にかと耳かたむけましたら赤ん坊を失つたらしい。お
婆さんがお悔みを言つたらお嫁さんが「お腹が痛くて手向が省けまして」と言う。たいへん劣
幼過重の村で、四時向の仕事を六時向七時向延ばしてもゆかなかねばならない。それで赤ん
坊の面倒を見る暇がないから、悲しいけれども手向が省けまして、という返事をしている。
何んとかしなればならないと思つていたらいいお婆さんがいて婦人廻向の三日向、一人の
お婆さんが村中のお嫁さんお姑さんを集めてラジオを聞かせた。その日はちょうど村の小学
校の運動会だが、そのお婆さんが学校に行つて、実は婦人廻向のラジオを聞きたりからと
いつたら学校でもいいことだから運動会はさきのばすというので、ラジオを聞きたために三
日向運動会をのばしてくれた。そうしてお婆さんのところへ集まつてみんな一生懸命聞いた
ら、始めて婦人廻向というものがあつたのかというお婆あさんもあつて、その子供もお嫁さ
んも来てたい人々なんだという。

その指導者になつたお婆さんがどういうわけですういふことをやつたかというところ、そこに

は短大に行っているすばらしい娘さんが一人いた。自分は貧農だから高等学校を出れば農業を手伝わなければならぬが、自分はお嫁に行く費用は要らないから、衣食を作ってもら代りに学校を出して下さいと泣いてたのんだ。その娘に啓蒙されて、思いついて婦人廻向のラジオを村中のお嫁さんお姑さんに聞かせたという話を聞いて来ました。

司会 堀山先生は今日御欠席ですか。御意見が来ますから読んでみます。

「現在の指導者は多く戦前からのベテランであつて、年令的にも若い人達によって漸次その地位を変えられなければならない。その意味で若い指導者の養成に心掛ける必要がある。指導者はもちろんその素養と経験に負うところ多いのであるが、また意識的に計画的に養成もできる。その指導者養成の方法として

一 若い人達を漸次責任ある地位につけること。

二 外国人留学させること。

三 国内で指導者養成を目的とするゼミナールを設けること等がある。レ
こういう御意見です。

渡辺 その指導者の向題ですが、農村には農民組合があるでしょう。農民組合がもう少し教育活動をやって、男の組合員のうしろにいる奥さんなり娘さんなりまで教育活動を広げてゆけばよいと思う。その奥さん、娘さんはたいがい農協の婦人部なり地域婦人会の会員になつています。

農民組合だけでなく、工場の労働組合にしても同じことがいえます。組合は少なくとも一

番基本的に民主的な線を背骨にしているはずで、最も近代的な民主主義に立たなければ労働組合は成り立たないでしょう。そういう組合の中堅の、しかもそういう協同活動に携わる人がなぜこういう地域婦人会とか農協婦人部を見捨てるか。僕等の経験で言いますと、家族と結びつきがあるのは争議のある時だけで、そういうことではいけない。普段から背景にある家族と共に伸びて行かなければならないと思う。婦人会を民主的な団体にするためにもこういう組合は目を向けるべきで、組合員の背後にある妻、娘さんに教育の手を伸ばして行くことが必要です。

五上 大体婦人団体はこの団体でも目先の利益というものに非常に目がくらんで、ちょっと根本的にそれを成長させてゆこうと考えない。それに無形なもの、ほんとうは有形なものですが——人的資源を養成してゆくなどということとは思いつかないわけです。何十人もの人を集めてグループを作ろうと思えばポツと出の奥さんではやりきれない。だからやっぱり指導者として、精神的には日常活動で訓練するとしても、婦人団体を動かしてゆくためには技術的な訓練をうける必要がある。人間というのは訓練をするべきだという考え方をある程度持たしてゆかなければならない。

次に、この訓練を誰れがするかという点、労働省でも文部省でもどこでもやってくださればいい。YWCAなどはスタッフの訓練を六カ月毎に詰にしてやっている。生活費から講師の謝礼金などたくさん費用をかけてやっている。そういう人をお金をかけても訓練しなければならぬという思想にキャンペーンしなければならぬと思う。

坂西 それはたしかにそうですね。また磯山さんの御意見のように青年達を外国にやれということもなかなかいいのですが、なかなかそうまでいいかない。

直接できる問題で一つばかり例を持っているが、三年ばかり前に二十人ばかり四時向ぐらい座談会をしたら、その時に三十七の元先生をして最近結婚したという人がいて、非常に土地の事情にうがった意見を持っている。ところが婦人会の会長は町長の奥さんで、みんなが巧く利用している。ところが私はこの会長の馬鹿なことに耳傾けずに、この人を引っぱり出したら、その次の年、その人が会長になった。外からの人の言うことがビタミン注射のように効くのです。

もう一つ千葉県の方に、四、五年前に行つたが、実にいい発言をするおばさんがいる。その人がどうゆうわけかというところ、その集まった人に証立して、あげた。そうしたらその次の時にPTA会長になつて、去年は婦人会長になった。だからそういうささやかな努力がみのるのです。

もう一つ、婦人少年室と連絡をとつて、一時向でも二時向でもいいからその人がいいと思う人を集めてもらつて話をするというところ、ことに夏はみんな講師として出掛けるでしょう。その時さうゆう仕事できないかしら、地味な仕事ですけれども何かの効果があるのですよ。

渡辺

集まってくるのが今の指導者でなく交替して出て来てくれればいいが。

大谷 今年はとでもできませんが来年度の予算で、グロツク別の婦人会議のようなものをするために経費を、何等かの形で確保して頂けなうだろうか。

それから私は今日話し合つて、われわれ自身が もっともっと勉強しなければいけないといふことを痛切に感ずる。だから 婦人向題研究会のような相互の意見を交換し合うといふ機会を作つて頂きたいといふこと。これにこの機会にお願いしたい。それから 坂西さんの御意見に南連したことですが 大衆の集まつてゐる組織がある限りに於いてみんなで手分をして出掛けてゆくといふことが非常に大切なこととす。

西 それと 地方の文化人——地方の大学の先生とか、地方の有識者もいるのに土地の人といふのは東京の先生といふのに頼りすぎる傾向があるのですね、地方の有識者と連絡をとれたらとてもいいと思う。そうすればまたその人を囲んでみんな勉強する機会が出てくると思ふ。

江上 私は 指導者といふ言葉を坂西先生がおつしやつたような精神的な指導者といふ意味に解釈してない。会を運営してゆく人といふのは別の能力といふのがあると思う。私は眞実を掴もうといふ態度の人なら充分指導者としていい、もう一つは、今は何人かの人の中に在つて会を公正に運営してゆく、しかもその会が誤まらないで発展してゆくといふ考え方に持つてゆく、そういう若い人を作つてゆく。

西 江上さんのおつしやることをするにも、やらなければならぬことがある。それは婦人少年室とかそういう関係の人がしょつ中見て歩いて、みつけておかなければならぬ。発見するといふ仕事ですよ。

江上 今度でも、もう少し応募した人がよくわかつていればいいと思ふのにわからない人

が出て来たというのは残念だと思ふ

坂西 ある所に招かれて行ったら、その会長というのはみんな十年勤続で、十年記念で表彰されている。十年続いたというのは私だったらみんな×をつける。まず、十年続くということがえらいことと思つてゐることがけしからんということから話を始めた。交替でやるということに意義がある。

江上 運営委員会というのを作り、その委員の一人として、谷野さんなり、高橋さんが出て行くのはいいが、一応民間に運営を頼んであるという格好にして予算は出せないかしら。

局長 お話何つていろいろ反省したのですが、西さんがおつしやつたようにたとえば地方の文化人が評価が低いとか、もう少し大衆に接触した婦人週間をやってくれという声が地方に大きい。それが、婦人週間なるが故に言つていらつしやるのか、あるいはいつの機会でも婦人の声はそんなことばかり言つていらつしやるのか。

渡辺 私たちの接触してゐる人にも限界があるのですよ。だからその人達はそのうことをまじつ中頭置いてゐる。その人だけのから回りです。今度も作文を話し合つて書いて協同活動した人達が出て来たから、普般生活的な仕事をしている人かと思つたら、そういう人の中にはいますが、大体上の層の人たちです。

大谷 それは限界はあつても現実はやむを得ない。ある業界新聞が、行政官庁としての労働者がどうゆうことをしているか批判してくれと言つてきた。あなたはどいうことを言つてもらいたいかというところ、官庁のやることはけしからんということと言つてもらいたいというところ。

とんでもない。これがなくなつたらどこかやるか。今年の全国婦人会議では、指導者層が多過ぎた気には不満があった。しかしそれにもかかわらず私はよかつたと思う。つまり何等か彼女等はみやげを持って帰つたに違いない。集まって本氣になつて話せばみやげを持って帰れる。だから眼界はあるにしても何ともそんなことを氣にしないで、とにかく一生懸命願うところを狙つてやつてみれば、それが長い向続く中に下まで押してゆく。今の日本の段階ではそれ以外にないと思う。

局長 私卒直に―― 今度の婦人逕向の会議で、先生方にリーダーシップをとつて頂きましたが、それを伺いながら、もし先生方が一月なり二月なりこの入達を引張つて頂けたらそれがとてもいいゼミナールの指導者養成になるのだがな、というふうに感じながら伺つていたのです。ただそういうことを感じて、もう一つ割り切れないのは、よその国は婦人団体が自分で指導者養成をやっている。それをすゝめることを私共が何かの方法で考える道があるのかどうか

江上 YNC A などやっているとところもあるでしょう。今心配しているのは、指導者を養成するということすら考へつかない層というのが婦人団体にはいっぱいある、それをどういうふうにするかと言へば、私はだからお役所にしてほしいとは言わないが、そのパソ種になるものを作つて見せる必要があるのではないかという氣がする。

伊藤 有一部分の会議員の一人が、私の方は民主的で会長も何もいなくて、会則もありません、と云うと、他の人が、私の方は十六人ですが会長も副会長もあり、きびしく会則を作

つて 会長は必ず一年交替で選挙でやっているという。はじめの人のところでは共同購入しているが、誰がリーダーということもなく、だんだんやっている中に自分勝手に分担を決めて、配給は誰、車運びは誰というようになり、その中に立派な会長が出て来る。漁仕春は育ちつゝあります。と言っていた。

そうして協同活動をやっていると、お姑さんなどがいい顔をしないででにくい人もいますが、そういう場合は「あなたは出て来てはいけません」と言っていて自分達の仕事がお姑さんに認められるまで未させない林にしているという話で実に具体的でした。

渡辺 いい活動をしている団体のリーダーはやっぱりいいです。リーダーというのは活動の中から生まれてくる。だからわれわれは、いいリーダーを作るよりも、まず団体にいい活動を通してもらうことがその中から新しいリーダーが生まれてくる一つの道ではないかと思う。

司会 それでは指導者養成ということ、何か特別に組織的に、計画的に、特にリーダーの技術面をトレーニングするといふ必要があるでしょうか。

三井 具体的な内容からまずいろいろ考える必要はあるが、しかしやっぱり技術を身につけるゼミナールがなければ教育活動というものはない。リーダー養成といふことを考える場合、どういふカリキュラムでやるかといふことを考えなければ意味がない。

伊藤 婦人団体を動かしてゆくリーダーは、実践活動としてゐる人でないとホツと出の人が来ても仕方がない。例えばPTAの幹部なり役員としてゐる女の人達、それから女子青年

団を動かしている人達。それから寮外員つかないのは昔の女学校を中心とする同窓会を巧く指導している人。労働組合で婦人部をやっている人達など。

しかし、素直を持って人達をどういうふうにして集めるかというのが肉題だと思う。

江上　今の婦人団体は、ファッション、ブツクをりくるようにあれもやった。これもやった。今年は目新しいことないかなとよその婦人団体が何をやっているだろうと見ている。指導者講習会がもし行われてそういう気持ちで出席されたら、おそろしい。そうすると、一カ所に集めて教えられただけでう呑みにしてしまふから。今度は結婚の簡素化だ、今度は小さいグループの読書会だということになることは非常に警戒すべきだと思う。

大谷　地方に行きますと、非常にいいなと思う人がいる。表に現われないが末端の中にすばらしいのがいる。そういう人を浮かび上らしてリーダーに育て上げるといふことは大切で

坂西　地方にほんとうにすばらしい人がいますよ。人間として実にすばらしい。ところが実際虐待されている。あ、いう人達を大切にすることによって地方がよくなる。

江上　そういう人のあつめ方は推せん制にしてはどうでしょう。

たとえば渡辺先生は誰れをすいせんするといふことになつたら躍起になつて考えませんか。大谷　そういつたことを是非来年あたり実現してもらいたい。そしてその次の年には、そ

こに出た人達が優秀な人を責任をもちて推せんするようにする。団体とか地域婦人会、農協婦人部、どこの役所に所属しているを拘わらず、実質的に活動して大きな影響力を与えている

……また五年経ちますと、地方で自治的にできるところまであるのはゆめかもしれぬ。
最初には中央集権制にかなりの段階まで引っ張ってゆかなければできないと思います。

江上　けれども、たとえば生活改良普及員は農林省が管轄している。その人達が年々歳々講習会に官費で来ているわけですから、そういう人たちを何んでもなく集めるといふよりも協議会を用いて、今年には労働省の人がその日は一日もらつて、ジツワリやるといふようにしたらどうでしょう。

大谷　実績をみるとあつちこつちにいい人がいる。生活改良普及員でも、保健婦さんでもいいし、そういうことをしてゐて、立派な成績を挙げているのはどの所屋であらうともよべる形にするといふためにはやはりお役所がやるということになると具体的な問題として差障りができる。それを解決するためには技術的な問題だが、今の御発言はいいと思う。

坂西

アメリカ辺りでは大学に委託生として配属して、三週間か六週間教育してもらう。

コロンビヤ・ハーバードなどにはそういう特殊コースがあります。ミシガンの方は、これとこれはこういう目的に沿うからと、時間をちゃんと組む。

西

労働者のリーダーだけに、やっぱり基金をつおードかどこから出して、労働者のためのゼミナーを作ってやっています。

江上

地方へその土地の有力者が行けばみんな十円カンパなどして、百万円というお金を集める。地方議員などにお金を持たして、外国へやったりする。そのことを考えたら果が

その人を丸抱えにして勉強させるお金がないとはいわせない。

局長

アメリカの労働組合は落達して、婦人の特別教育などしなくてもいいようになったが、その段階になるまでにはお金のあつた人が寄付などしたミセス・ルーズベルトの労働教

育のための民間団体があつたでしょう。

司会 インターナショナル・インデケーショナルというものがあつたでしょう。あれもお金は政府が出して民間の人が運営しています。オリエンテーションがあつたり、トレーニングの内容としては留学とか、ゼミナー、あるいは団体や施設などの見学、あるいは視察、そういうこと、お道をつけるだけでもサービスになると思います。

三井 市民活動ゼミナーというふうにやればいいと思います。

大谷 地方の講師かどうかというわけではないが、中央でわれわれがこうして話しているように地方の人には向題を持つていない場合が多い。やはり東京にいる人は向題意識を持つて、いることは事実だ。

だから、何かの形で地方のついでてもらわなければならない方に、出してもらって、中央でディスカッションして向題性を持つてもらいたい。向題性を持つてもらえば、地方で流し方はたくさんある。

渡辺 中央は少し意識過剰だね。

第二一回

司会　それでは前回に引き続きまして協同活動ということの分析、とりまとめを御願いたいと思いますが、今日は前回のお申し合せにより、まず三井先生からのレポートがございまして、それを中心としていろいろお話しをすゝめていたづきたいと思ひます。

三井先生の提案

三井　この前の話し合はほとんど全部の問題を当ってしまつたわけですが、オ一議題である協同活動の傾向についてはこの前かなり充分な現状分析ができましたのでオ二議題の指導者養成と、オ三議題、オ四議題についてさつそく提案させていただきます。オ二議題の指導者養成についてはですが、昨年の専門家会議でも提案している関係上、もう少ししくわしく考えてみなければならぬという責任を感じていたので、これを主として申し上げまして、オ三、オ四議題につきましては簡単に考えていることを申し上げてみる程度にとどめます。

I　指導者を養成するということとは婦人の協同活動を発展させる上に基本的に重要であるということを確認したい。しかしこの問題からは二つの問題が発生してくる。

A　指導者とは一体何であるか、どのような指導者が求められてゐる指導者なのかという問題。

B　協同活動とはなんであるかという、二つの問題が二つから出てくる。一かも二の二つのAとBとの問題は相互に関連し合つていると考えられるのであります。私はこの二つの問題について一応次のような回答を与えてみたい。

(I) 指導者というものには大ざっぱに二種類考えられる。

α 比較的大きな集団の代表者として、集団の意志の實現のために先頭に立つて骨を折る人、これが一つの意味の指導者。その次にβ、そして比較的小さな集団のまとめ役として、人々を空間的に近接させ、結びつけ、彼等が相互により学習活動と相互影響を展開してゆくことができるような世話役をする人、こういう意味での指導者。こういう二つが考えられる。

そこでそのαの意味の指導者というものをわれわれは普通先導者とか代表者という言葉でαの意味の指導者を世話人、あるいは条件整備者という言葉で呼びかえることができる。

(2) 協同活動についてもまた大まかに二つを考えることができる。そのオーの種類は、

α 複数の人達が力を合せて対外的に何等かの影響を及ぼすことを目的として対外的に働きかける活動を協同活動という。この場合を協同的及社会活動、あるいは協同実践と名付けることができる。

β 複数の人達が相互に影響を及ぼし合うことを目的として融合し力を合せて相互の向上を計るけれども、対外的な活動をオーの目的にはしない。こういうような協同活動、この場合を協同活動としての学習活動、あるいは共同学習と名付ける。こういうふうな協同活動をたゞ二つだけに割り切ってしまったていいかどうか問題ですが、一応大ざっぱにはこの二つの形を考える。そして今挙げた(1)(2)のそれぞれα、β

はそれぞれに対応し合っている。

Ⅱ

現在求められている指導者はどういふものかということ。これは協同学習におけるリーダー、すなわち世話人、あるいは条件整備者であるということを確認したい。協同実践の指導者というものも勿論非常に欠けていることは事実です、しかもいわゆる先導者とか代表者といわれるような指導者というものはスモール・グループでの世話人の中から形成されてゆくものと考えなくてはいいけない。だから現在考えている計画的なリーダー養成の場合に、これを正面から取り上げる必要はないということを確認したい。

Ⅲ この種のリーダーをどこで養成するかという問題。これには次のような五つの場合が考えられる。

A 各種の民間団体がそれぞれ各自に自分の団体員の中でこういう種類のリーダーを養成する場合

B 各種の民間団体が協力して、その所属団体内のメンバーを養成する場合

C 右の二つのものが自分の団体のメンバー以外のものでまてゆきかけて養成する場合

D 官方が経費を負担して民間団体の自主的な企画によつて養成する場合

E 官方がその経費において独自に受講者を選別して養成する場合

右のA、B、C、D、Eという順序は大体私の提案者の考えですが、それぞれもつとも望ましい順序を現わしていると考えられる。

最初のAとDとどっちが望ましいかということとは問題ですが、私も厳密なことは考えら

れぬが、しかしながら民間団体としてこういうような新しい指導者養成の必要に気づか
せるということ、しかもどのような企画でどのくらいの経費を要して指導者養成が可能で
あるかということを示し、またすゝめてリコメントする役目は現役階級は官庁に負わせれ
ていると考えられる。

そこで官庁は(1)リーダー養成の必要性(2)リーダー養成のカリキュラム(3)リーダー
養成の企画と経費などの資料を一般に普及する必要があるということを確認したい。

Ⅲ 小集団の世話人としてのリーダー養成のカリキュラムはおよそ次のような基本原則にも
とづいて作られるということを確認したい。

A よいリーダーの形成に際してはその形成方式において最大限度に非形成者——形成さ
れるものの自主性が尊重されなければならない。

B よいリーダーの形成には理論よりも実践をオーにすることが望ましい。理論を叩こう
ということではなく、実際にやってみるということをお一義にすることが望ましい。

C よいリーダーが身につけなければならないものとしては、

(1) 素人同結合の技術

(2) 集団思考推進の技術

(3) 調査活動推進の技術

(4) 協同理解事項抽出の技術

(5) 学習活動深化の技術等

ア 一回のリーダー養成の所要時間・どのくらいの時間で最低限、リーダー養成が可能かという基準については次の基準によって考えてみたい。その一つの問題を取り上げて、これについて集団討議をし、さらに簡単に文献やその他の意見を調査研究して一応もつとも素朴な共通の理解に到達するまでに要する時間を最低六時間と考える。これは非常に簡単なものですが、深めたらやりがいのから、最低六時間を要するとして、この間はグループの中で同一の司会者、その他の係は同様の方々の任務、分担に属するものとする。

・とうするところの標準的で一つの小集団の大きさを十人とするならば、小集団のすべてのメンバーが少くとも一度は一つの問題について司会者とかあるには書記とかいう役目を一度は経験することを考えますと、六十時間というものが、最低限というふうに考えられる。連続しても六十時間、二週間は必要ではないか

VI リーダー養成に対する学習向成は、これを一つの雛型として示すと次のようになるであらう。

A 小集団を形成する手掛りはどんなところに行われるかという問題・スモール・グループを形成する手掛りはどんなところに行われるか、こういうものを集団討議で研究を促ける。

B 小集団の集会の場、設備、集会通知はどのようにしたらいいかというこの研究。

C 小集団のレクリエーション指導の技術の研究 小集団を一番早く集団化してゆく、仲間作りしてゆくにはレクリエーションが大事だといわれている。

D 主題設定技術の研究 どういうふうにして研究主題を取り上げるか、どういうふうにしてグループのテーマを取り上げるかというこの研究

E 学習教科・教材使用上の長短の研究

F 調査活動についての研究 これは集計活動やインタビュー、そういうものも含む

G 集団思考の推進の研究

H まとめと確認・適切な宿題・配分方法の研究、まとめをして最後に確認をする、そこをまた確認の時に、次の時に集まるまでどういうことを調べてくるか、誰にどういうことを聞いてくるかということの取材のアイメントの研究

I 小集団の連携方法

J 小集団の拡大と分離活動についての研究、これはスモール・グループが今迄未加盟であつた人達が加盟してきてだんだん大きくなる、望ましい集団活動ができる以上に大きくなつた場合に、細胞分裂みたいに分裂しなけければならぬが、それをどういうふうにしたらいいかということの研究

K 学習課程と実践活動との向にある問題。普通の場合には学習の課程というものを本当に踏み固めることなしにすぐに実践にぶつかってかじがこめれてしまう。グループさえチリヂリになってしまう状態が多いが、その実践と学習の関連についての問題

L 広報技術の研究 これは自分達のグループでやってゐることを一般に知らせて、グループ活動のよさを知ってもらふということと同時に、自分達のグループでまとめあげて

実践までもってゆきたは内題をそのグループやグループに入っている人に呼びかけてゆくための広報技術であります。

リーダー養成の講習の企画者、助言者は右の学習内容にすべて満たされるように配慮しながら受講者が小集団を形成し、それぞれに自らの課題を発見して、あるいは与えられた課題を研明して望ましい技能を身につけつゝあるかどうかをたえず慎重に表現化してコースを進めてゆくことが望ましいのである。これによりリーダー養成ゼミナールにおける小集団形成の基準は、ゼミナールで団体、小集団をどう形成するかというところを、基準としては年令別の形成、階層別の形成、あるいは教養別の形成とか所属別の形成など、いろいろの形成の基準が考えられるが、いつの場合にも中心的な配慮として、居住地域別の小集団形成というものが考えられなければならない。居住地域別というものが常に中心問題に考慮されてゆかなければならない。これはゼミナールが終了したのちも自主的に継続研究の組織を維持してゆく上に非常に重要である。最後に行政機関、官庁というものの民主化の状態、日本の民主主義の深奥の状態というものから考えると大事な助成金を受けるにいつての助言がある。オ一に自主性を失ふべからぬということ。オ二にすべての求める団体公平であるということ。

三番目に団体の大きさというふうなものに応じて費用が配分されるということ、必ずしも適切ではない。なぜなら名目会員というものが非常に多い。なんら会員意識のないものがあるが、実質的に、具体的に現れた事情、実質について助成する。例えば何人

ぐういのリーダーを養成するゼミナールをやったという、その規模に応じていくつというふうに、具体的に手続、規模に応じて考えるべきではないかという三つの条件がある。現在の状態で助成金はいけなかつたのである、何もできなくなるではないかというのが私の考えです。

才三議題の全国協議会の結成の妥当性については、問題は妥当性よりも可能性が問題になつてくると思う。おそらく可能性はないと考えられる。自主性を失ふぬぬでこういうものを結成する可能性はない。戦時中には大日本婦人会という自主性を失ふぬぬさせた統一体が結成されたが、現在の状態では協議体すらほとんど可能性はないのである。協議体が結成されることは、基本的には望ましい。しかし単に一つの問題がいくつかの団体を網羅するということとは到底あり得ない。同じ協議体でもいくつかのものが生れてくるかもしれないし、どれであつていいではないか、実質的には、社会活動としての実践上の問題に応じた協議体、例えば売春対策ならば売春対策という問題に応じた協議体というものになつてゆかざるを得ないのではないかというのが私の考えです。だから民間団体にしても官方にしても全国協議会を結成しようというふうに強力に進めることは賛成できぬ。

政治的中立という問題についてはこれは党派的中立を混同してはならない。政治的中立ということとは、実質的にはあり得ない。ことにそれが個人的の問題になつてくると、政治的中立はあり得ない。禁団としては政治的あるいは党派的な中立が望ましいようである。

団がいくらでもあり得るということに認めます。その中の個人、個人は一党一派に偏している。ところが、集団としてはいわば党派的の結論を出さぬということと一党一派を支持するとかしないとかいう結論を出さぬ。こういう意味ではどういふ団体は学習団体と名付けてもいいが、こういう党派はどういふ考えをもっているかという批判の立場をとるような学習団体といつてもいい、と思う。そういう問題と政治的中立という問題を混同して政治的中立ということが説かれる場合に今の団体を政治からタブーにしてしまふ。団体にとって政治というものをタブーにしてしまふという危険性を非常に持っている。ことに最近出席した婦人団体のある集りでは、思想的中立ということすらいつてゐる。思想的中立なんか全くナンセンスであるが、そういうことすらいわれる状態がここから出てきているかと思う。

最後の才四議題の行政機関の役割というのは広報的な役割がオーエ、予算があれば助成的役割があるが、リーダー養成の時に提案した通りであります。非常に簡単ですが以上の通りです。

指導者養成について

司会 御報告を中心に御討議を願いたいと思いますが、はじめに御質問がありましたらどうぞ。なければ内身に入ってお話願いたいと思いますが、今日の会議で協同活動についての大体の方向づけ、問題点の分析について一通りとりまとめをしたいと考えております。まず指導者養成、これが御報告の大部分で、大変大きな問題ですので、順序に従つて充分

にお話し合い願いたいと思います。先生の指導者養成の計画案とい、ますか、構想の大前提に比較的小さな集団のまとめ役としてのリーダーの養成ということが、こゝで審議するべき指導者養成の、指導者の意味合だということがあつて、それに基いていろいろ御計画が述べられたのですが、そのあたりから一つ御検討願ひまいしょうか。

渡辺 御提案は、世話人あるいは条件整備者といったふうなリーダーを養成することによつて、その人達がやがていゆゆる先導者的リーダーに形成されていくという考え方ですか。

三井 どうです。だからまずこの世話人をしてのリーダー養成だけを考えればいいのではなにかということですか。

渡辺 ところが現実に見て両者はまるで異質のものでありませんか。いい先導者になり得てもその人は必ずしもいい条件整備者にはなれない。それからすればむしろ優れた条件整備者であっても、その人は必ずしも先導者としてはむかない。それは性格的に非常にいろいろなものを備えた人ならばなり得るでしょうが、本質的には何か異質のもものではなにかという気がする。

三井 本質的にでなく現象的に異質なのです。小集団の中心とまり得るといふリーダーでなければ、大集団を民主的に指導することも不可能ではなにか。非常に非民主的になりリーダーが出てくるのは、小集団さえリードできない人間がいきなり大集団のリーダーに立つからなのです。

坂西 日本の社会に、伝統的に本格的な指導者を育てる条件がなかったところから、くる

めではないでしょうか。

渡辺 確に現実には異質的なものです。然し始めからあるリーダーだけを考えてこの問題を討議しても、無理が生出来はしませんか。

三井 それは全く賛成です。現在やっている町村の婦人会長さん、婦人会りリーダーをいくつ集めて講習しても何もならない。これがいろいろな婦人グループと対立している状態はどうしても解消できない。

渡辺 だからみんなが自分のまわりの小さいグループのリーダーにもなるが、一国のリーダーにもなる、そういう場合というのは極めてまれなのです。

西 地方の指導者講習会をいくらやっても仕方がないというが、現在、大きな組織があるし、もう一ぺんなんとかがなければ、そのまゝほっておくわけにはいかないうえです。

三井 私の今までの経験では、ボスのリーダーといわれる婦人会長、連合会長でも、その人自身がこういうリーダー養成が必要だ、そうすれば自分の後継者はいくらでもできるということがわかってきてこのプログラムを承認すれば、後継者はいくらでも出てくるのではないかという考え方です。

渡辺 しかしその古い型のリーダーが往々いる社会的基盤からは新しい条件整備的のしかもそれが先導者になり得るような世話人というものは、生まれにくいと思うのです。それで両方の住む社会的基盤を考える必要があるのではないかという意思です。

三井 その方向は、教育的なアプローチでなく社会革命的なアプローチです。そういう社

会基盤を崩すための農村の改革などもいろいろ大事でしようぬ。北海道に行ってみると何代というような家門を誇るものがいなかから、民主的集団が形成しやすいが、内地ではなかなかできないというのは事実です。婦人会のリーダーを支えているさういふ社会的基盤を突き崩すのは別個のもので、われわれとしては、人間を高めることによって、それが下に崩されていくことを望む。

渡辺 この御提案は無菌の培養器の中で通用するものではなですか。ところが現実決して無菌状態ではない。いろいろの雑菌がある。さういふ培養器の中にさういふ素直なものを無条件に適用させることができるだろうか。俗世とか習慣とかさういふものを考えなければならぬのではないか。

大谷 私は基本的にはこの通りだと思いますがこんな大がかりな本格的な養成をやらない場合でも、集まっている人達ばかり熱心に勉強している。しかしそれを組織する立場にある人が極めて不熱心だ。つまり講習会をやりますと、講習会に未だにいる人達が一生けんめい聞くが、それを主催して、リーダーになればならぬ人が非常に不熱心で、講習会をたづねて争と心得えている。さういふように行争としてやられているところは一ぱん問題があるのではなにか。世話役の養成の場合も、先導者の養成の場合も、結局僅かに聴が入っていないところの問題があるのではないかと思う。

坂西 しかしどの前に、渡辺さんのおっしゃったことと結びつけて、導いてしまう根本の原因はさういふところにあるのではないかと思う。問題が自分の身近なものにいつもおちて

いかない。たとえば指導者が一生けんめいを入れてくれるかもしれないけれども、他の人は横を向いている。どうして本格的にやりたいと思う人が一生けんめい協同研究でやろうとしているが、指導者の方では耳を傾けないという。問題のつかみ方から来ている場合が非常に多いのではないか。

大谷 私の云ったこともそうなのですよ。つまり問題が身近な問題で、自分達が何とかしなければならぬという問題であれば、先導者に相当する人も、条件整備者に相当する人も共通の関心を持たなければならぬ問題ならやれると思う。問題のセレクトの仕方が非常に宙に浮いているのではないか。ですから学習活動の内容こそが問題だと思う。学習活動の内容によつて、むしろ形式が形成されてくる。わくを作ることより前に何をとりあげるかということが問題になる。その何をとりあげるかということがポイントをついていけば、どちらの形でもやれるのではないかと思う。

渡辺 もう一つは、こういう養成をする場合、対象としてだれをつかもうかということですよ。今まで通りのやり方では個々の条件整備者の個人を替うという目的でその会を持ちながら、そこへ出てくる人は決まった人になりますね。

近上 渡辺さんがおっしゃったように、稚函のたくさんある社会ですから理想案というものはあつても、どういうふうにとれにはめこんでいかなければならぬかというのが一つの問題だと思う。今までのところ先導者というものは、本当は先導者ではなくて與さまで、反射的にそこに坐つて居心地も悪くなかつた人ですよ。そういう人に大きい団体の先導者の資格

というもの、リーダーは何かにあるべきかということをおしえて、多少はバターンを与えるような傾向になつても、その資格を確立することが必要だと思ふ。その人自身が世話役程度に終つてしまひ、どうしても上に伸びぬ。世話役が出来た人が必ずしも先導者になり得る資格があるとは思ふない。体力も能力もいるでしょうし、経済的な余裕も必要でしょうし、そういうわけだ、そういうことの向違ひを起さぬように、いろいろな草も生えてゐるから草を引つて抜いていかなければならぬ、それを決めるのは大衆だと思ふんです。

渡辺 私のいたことは、この向の婦人会議にも来ない人、取り残されてゐる人をどうするかということなのです。このやり方ではやっぱりそういうものは残されてしまふ。こゝでいくら指導者を養成しても、その人達が取り残された階層に指導者として入り込んでゆくことはよほどなければできない。ほとんど入ってゆかない人だと考えるのです。

三井 こんりんざいどうしても集つてくる人には、そういうふうになきかければよいでしょう。

渡辺 それを考えようではありませんか。まず官庁がやったものではその芽が伸ばせぬという事です。

三井 今まででは一般の人達に背を向けさせるリーダーばかりが養成されてゐた。今度は一般大衆の方に向くリーダーを養成するプログラムを考えたいのです。こんりんざい来ない人間をどうするかといへば、救済事業か戸別訪問以外にはない。

渡辺 だからこの場合でも、こゝに集つて来た人達に「あなたのためゆゑに集れ」といふと、

多くの人が必ず集ってきます。しかし必ずやってこない人もあつてよい。その人達のためにあつたは条件整備者としてやってゆく情熱がありますか。と、そこまで徹底してやるべきだと思ふ。

大谷　つまりこういう案で十人なら十人のクループの組織者、条件整備者を集めるといっても、その策め方に向題が残る。次には会合で何か同じて歸つたが、聞いて歸つただけの組織されないということが全国的な現象です。

司会　スモール・グループと大きな組織には異質なものがある。スモール・グループの場合には非常に人間的な結合性があるが、大きくなるとそんなことはおつたかない。こゝに合理主義的なもの、あるいはビュローラシーも出てくるでしよう。しかしそれを排除して小さなグループから、といつても解決しないのではないか。どうすると大きな組織においては異なる要素がいろいろではないか。一方現在ある大きな組織に非常に向題があるので、それをこゝすためにも小さなものが育つのはいいと思ひますが、

坂西　私はそれが同じ場であつた必要があるのではないと思う。こんなやり方では今のスモール・グループから排除されるぞというだけでは現実の問題として途中が切れてしまふ。近上　グループを作つたためにグループだけが固まつて、よそと調和しない排他的な要素を非常に強く持つてしまふ傾向がある。小団体といつても他のグループとの結び合ひはどうしていったらよいか。アメリカでは十人のグループでもPR係がいて各グループの連絡や調整をとつてゐる。日本ではグループができたから、そのグループで温め合つて終つてしまふか

ら行き過ぎる。大きなグループとの調和、あるいは異質的なグループの互いの調和をどうしたらいいかという、技術的な問題があるような気がする。

大谷 私めいっただころで、ちよつといひ足りなかったが、基本はやはり御提案のように小グループに置き、今後はこゝに目をつけて育てゆくことが大事だと思ふが、現在の指導者も異質だからといって排除すべきでは無い、一語に勉強させればこの異質が変り得ると思ふ。

西 最近大きなグループの中に小さなグループができて、大きな組織の方が解体しかけているという傾向がありますね。そういう問題をどう考えさせるかということも、実際問題として出て来ているのではないですか。ですから非常に大きな組織の指導者の教育というものは大きな問題になつてきていると思ひます。

渡辺 めたくしはそうやって大きい先輩者——いま、古い存在として早く脱皮してもらいたいという人も含めて、やるのは限界があると思ふ。小グループの指導者に力を入れて集団的にやるということは効果があると思ふが、そういうことを官庁がやるのは無理では無いのか。

大谷 提案されているのはムーヴメントだから、ムーヴメントになり得るかどうかにも問題がある。

五上 よくない指導者だといわれる人の中には人に無理強いされて身銭を切つてやっている人もあるでしょう。その大ボスに居心地よくさせておいて、なぜお前はあぐらかいている

かといつてみても、大衆がそうさせている場合も多いでしょうね。その人達が互くためにはあるたが悪いというのではなくて、これ程大きな組織のリーダーになるにはこれくらいの条件がいるという、パターンを示した方がいりのではないかしら。

司会 スモール・グループの指導者養成は絶対に必要です。同時に大きな団体の指導者を養成することも必要ではないかという御意見もあるようですがその場合方法論としてはスモール・グループにおける指導者養成と同じものでいいのか、別の技術があるのかという点を一つお話し下さい。

近上 私は本質的にスモール・グループのトレーニングと同じでよいと思う。

渡辺 しかし技術は身につけてもやっぱり素質というものがあつていふものがあるでしょうね。

近上 集団になるとことを運ぶのにはある約束をふむ手続が必要になる。我流でやっている人は、人がついてもこない。これはやっぱり集団生活する人が何かの目的で集る時の理だと思ふ。

坂西 私はあまり地方まわりをしないが、見た範囲では、いぬゆる地方の先導者という人達の代表者は、占領下の司令部の指導者指導者としてのテクニクというものを知っていますね。しかし同時に非常にとれをうまく使つて、どういふふうにも愚民をたぶらかすかという技術まで身につけてゐる。どうして大衆がとれは会議の方法にあつてはまらないではないかというところ、どういふふうな弁明をすれば四り抜けられるかという技術までよく知っていますよ。近上 会の運営をみると、あれよあれよという程、一応形だけは民主的になっていますね。

三井

しかしそれはアメリカの指導を表面的に受けただけで、本質的技術は身につけたが、本質的技術は身につけていないということだ。

五上 集団に対する一人の人の責任、個人と個人との関係、集団と集団の関係、というように、ことを充分にわかるように、そういうリーダーを魂を入れ、養成するという目標を打たないといけない。

司会 魂がなく、技術だけが導入されたということでは不思議な現象になつてしまつたわけですが、技術を排除するという考えにいつてもいけないのでは無いですか。

三井 私が出席したあるゼミナールでホームルームのグループ活動を指導した先生の記録に仲良しグループを作つてはいけないというところがあつたのです。どこに仲間作りをしてはいけないという力が働いてゐる。

大谷 それはその意味をよく分析してみないといけないと思う。私は仲良しクラブ はないと云つてゐる。これは甘つたれ合ふということだ。これは学界などでも非常に多いのです。だから馴れ合ひたないものはいけない。派閥、馴れ合ひが日本は多すぎるから、もつと共通という形をとる場合に、個人個人の責任を持ち合うのでなければいけない。

三井 仲良しグループではいけないということは、排他的にしてはいけないということだ。ところが、そのまゝの意味にとれば、仲良しになつちやいけないということではグループを作つてはいけないということだ。みんなが一人一人を管理するということは、明治以来の教育ですからぬ。

大谷 仲良しクラブになつてはいけぬというところ、仲良しになつてはいけぬということ、ニユアンスが違ふと思う。協同活動する以上仲良しになるのは当り前だ。それが單なる仲良しクラブになつてはいけぬというのを云つてゐる。その批判が大変強く出てゐる。

司会 仲良しクラブということとは非常にインフォーマルで、協同活動はフォーマルなものである。そこに馴合の気分が持ち込まれてはいけぬ。

坂西 結局問題は、個人の自覺がないためにいたずらに結びつき、何でもいいのが悪いとかグループ判断して、自分の知性というものが仇がななことですね。そういう問題こそリーダー・ピミナールで一ばん考へるべきことだと思ふのです。なぜ自分達が孤立するのか、なぜ他と提携できぬかという問題など。

司会 では技術論に戻りまして、最初の御提案は主としてスモール・グループのリーダー養成ですが、大きなグループのリーダー養成も必要だという御意見をどうまいりましたか。その場合どういうテクニクで養成するかということとを併せてお考へ願ひながら、進めてまいりましょうか。

一、ニは現在求められてゐるリーダー。三から以下は全部技術論ですから、これに就いて大きなグループのリーダーがこれに當てはまるかというふうなことからおすゝめ願ひまいりましょうか。

大谷 まずオーにお聞きしたいのですが、養成期間は一週間は必要だというお話ですが、奥

際問題としてできることなのかどうかという疑問を私は感じたのです。

三井 私はいまPTAの会長として、PTAを基盤にしてこういうリーダー養成のものを計画してありますが、二週間という時間とはできませんね。せいせい十回、三十時間、それを一週間おきぐらにとるといふ考です。

司会 リーディング養成の技術としては講習会というのだけが挙っていますが、講習会を何回か連続して養成するという方法はいかづですか。

三井 おそらく不可能と申し上げますね。不可能ということとは、実現と結びつけるという原則をふみはずすからです。

司会 たとえば一つのグループなり団体のリーダーが、ほかの団体の活動状況を少し見学するとか、あるいは地方の行政機関の機構がどうなっているかということの研究をするということのためにトリップをする。そういうふうなことは考えられませんか。

三井 それも小集団活動——これはかりとめ小集団ですが——という小集団活動の中で問題意識をもって見学するのではなかったら意味がない。

五上 講習会式というものはどういう形式がよくわからないのですが。私は十人ぐらいのグループでも事情に応じてその方法をいく通りにも作って見せたらいいと思う。たとえばよくみんな、レクリエーションも兼ねて、お金を出してどこに行きますね。それだけのお金があるならどこかで缶詰になつて、リーダーの養成ということをほんとうにじっくり腰を据えてやるといふような方法もあるのだということをよく教えてあげればいいではありませんか。

渡辺　どの場合、問題は、団体内で自主的に養成するか、他団体と協力するか、官庁が進んでやるかという問題になりますね。やるにしてもお金と時間は絶対条件ですから、その限られた条件でいかに効果を等げるかということをもまず考えなければならぬでしょう。どこでどういう送り方をするかということが問題になりますね。

しかも御提案によれば同一居住地でという一番大切なことを考えていらっしゃる、そうすると同一居住地にある研究団体とか複数的な団体が協力し合つて、日常生活の中でゼミナールを持ってゆけば、お金と時間の問題がかなり解決されるのではないかと。ということでしょう？

とにかく一度に集めて文部省や各教育委員会が毎年やっているようなことはあまり効果がないですね。

三井　意味ないです。

大谷　わたしは、理想的にはここまでするかなければならないと思うが、もう少しホータツルな案は考えられないか。つまり簡便にやることです。現実の問題として農村を考えてみると、ほとんど不可能だ。PTAのようなところではできるかもしれない。あるいは特定の選ばれたところではできるかもしれないが、ムーブメントとしてやる場合には、広くはとてできないと思う。だからせめて二日なら三日、三日なら五日泊り込み、それを有効に使つてどの程度までできるかということを考えるケースではないと、実際問題として遊離してしまう。西　居住地でこの問題を取り上げてやるということ、もう一っどこかに集めて高い

技術を授けるという場合と二つある。

五上 いろいろのコースがあつて、一度に全部の講座がとれないまでも、チャンスがあつたらリーダー養成のクラスに入つて、ワンコースとる。また家に帰つて実践していか自分に暇と時間があつてそういうことができるチャンスがきたら次の別なコースをとるといふようにしたらいでしよう。

自分のグループレを力をつけようという時にどういふ人が相談にのってくれるか、その引受け所はないと思う。だからどういふところに自分が自分の当面する問題も持つていつて、しかもショート・コースでやれる機関があればいいと思う。

渡辺 静岡県では、婦人会と教育委員会と共催で、県内をハツぐらゐに分けて生活学校というのを一年間やつた。ところが出てくるのは村の選抜で村長なり婦人会長の先導者が、後つぎみたいぬ人を出してくる。

五上 それは集め方に問題があるのですね。どこかでリーダーの養成をしているところがあつても自分は異質なものであるからそこには気軽に行けない。例えばYWCAのようところは自分の団体でリーダーを養成することができますが、それ以外のいさうで指導者養成など手のつけられなかつた婦人団体で協力しあつてリーダー養成ができるようなところに、非常にくせのないリーダー養成が持たれたつていいのではないかと思う。YWCAが計画しているのは、ローカルのリーダーを集めて同じ宿舍に泊つて生活費も出してやるわけなのです。これはほんとのリーダー養成です。

三井 それは非常に問題だと思ふ。軍隊の内務班の訓練みたひなことをやってみて果していゝかどうか。

司会 YWCAというのは一つの目的のある団体ですから、自分達にふさわしいリーダーを養成するという範圍なら結構なことです。

三井 それだけなら結構だが、小さいグループがセクト化するとか排他的になるのは基本的に地域を浮いてゐるからです。地域の問題にぶつかるからできるだけ広がり、大ぜいの者に呼びかけようということになる。地域を外れて、訓練をやつてみても、地域改造とかわれわれの暮らしを高めるといふ基本的な何の役目も効果もないと思ふ。

司会 すると、いづゆる有志的団体に問題があるということですか。たとえば婦人の協同活動というのはすべて地域に結びついたローカルな活動であるべきだということやうな。

三井 問題があると思います。地域に結びついたと言つても、未梢的なことに限らない。原水爆禁止も地域活動だと思ふ。

西 地域活動の中からは原水爆の問題まで高めてゆくということはいへんなことですよ。三井 いかし、地域活動してゐる人達の原水爆禁止活動というものは本気ですよ。

たとえば地域の交通網の問題、青少年不良化の問題と実は原水爆の問題と結びついてゐるから熟慮がある、それをすっかり忘れた者が原水爆禁止運動をしてほんとうの意味の力がないと思ふ。

西 それをどういふふうに養成するかということの技術論になつてゆくわけです。

三井 山形県に行つて気が付いたのは、山形での青年学級が行き詰つたのは、地域を浮いてサークル活動になつてしまつたからなのです。

渡辺 青年学級が妙な存在になつたのは青年学級振興法がどうさせたのです。だからいかに官方が、せっかく親切にやつても、本来の期待と違つた結果になるということは、青年学級でよくわかると思う。公けのところから手を伸べられるとどうしても自主性が希薄になる傾向があるということです。

大谷 三井さんのやつてゐる個別的なPTAならできるかもしれないが、労働省なり労働省が、これがいいかうとすゝめた場合に、逆の意味に、転化する危険性があるからおそろしいと思う。

西 婦人学級のひな型が作られ、ばちになうえしてまた一つの規格統制品がたくさん出てしまふでしょうね。

大谷 それがいかに、いかに個別的に理想的なものであつても、すぐに全国的なものに転化して考へるのは疑問がある。

司会 地域の生活向上ということのためにつらがる協同活動があること、これは非常に意味がある。それと同時に、地域を越えて——具体的に云いますと、女子の雇傭をどうしようとか、女子の高等教育をどうするかという、非常に機能的集団も同時にないと、日本の近代化という意味から危険なものがあるのではないでしょう。

三井 機能的な集団をいかに云つてよい、問題はそういう小集団活動の中で新しい

リーダーを形成しようということに努力する場合に、地域の問題を取り上げて、それを解決する中で始めて養成されるものでしょう。

司会　すると、もっと大きな集団のリーダーも含めて云っているから話が混乱したが、そういう場合にも地域性ということを非常に重要視しなければならぬか。あるいは地域を越えた、もっと科学的な一つのアプローチがあるのではなからうかということが問題ではないでしょうか。仮に小集団活動が巧く行って、リーダーがそこに出来た。その次の段階はどうしますか。

三井　小集団でさらに結合する場合に、一挙に大集団に結びつこうという傾向がある。たとえば土曜会でも早の史会でも、や、もするとそういう傾向があるが段階があると思う。小さい集団が身の回りの小さい集団と結合してさらにそれが同国の大きいものに結合して、もっと大きいところで活動をする。そこで新しい全体を統括するリーダーを選ばなければならぬでしょう。その中から養成されてくる。だから県単位なら県単位で、最も適切なリーダーが小集団活動の中でもまれて一歩のリーダーを選ぶでしょう。そこでまた連合体を結合してまたリーダーが出来る。その過程で大集団が養成されます。

西　その形のものがいま出てきているのではないですか。各府県に行きますと、地域婦人団体の連合体がある。もう一つは婦人懇話会とかがある。さまざまな小グループが集まって、懇話会という形をつくっていて大体今二本立の連絡会みたいなものになっているように思う。司会　自然発生的なものに任せておいていいか。それともアドバイスのコースが要るか。

いうことですぬ。

西　大きくなつてゆくということが現実の問題として起つてくるならば、大きくなった組織をどうするかというリーダーの問題はやっぱり忘れることはできないですぬ。

坂西　しかし、たゞ一回や二回で効果を争げるのはむずかしい。同じことをくりかえしくりかえし、違った角度から持つてゆくということが必要になつてくるのでは無いですか。

三井　形の上ではくりかえされるけれども、内容的には違う問題を取り上げる。そういう過程の中で人間が形成されてくると思う。

司会　スモール・グループでリーダーを養成するやり方として先生がお出になつた案、それによつてスモールはもんラージグループのリーダーも、かなりの程度養成できる、もう一つは大きくなつた時に異質の問題が出てくるから、一つの技術的、何かの形の指導がいるという、二つの意見が出たということとまとめさせていたゞいて、あとは主として学習内容等ですが、これは特に御相談しないでもよろしいでしようか。

三井　官庁の在事としてどういうことをすべきかという問題は話しあつたらいいでしよう。司会　それでは、カリキュラムや学習内容は非特に細かに技術ですから割愛しまして、二つでどういったプランをどう実施するか、特にその場合官庁ではどうするかということ、御意見があつたらおっしゃつていたゞきまして、次の議題に進みたいと存じます。

(蟬山氏 ↑ 出席)

坂西　さつき渡辺さんが静岡県の問題をお話になりましたでしよう。私も二回はかり出た

ことがあるが、ひからびたおばさん達が並んで何もいねないので、いくら骨折しても何も引き出すことができない。官方がやるのか、地方自治団体がやるのかいろいろあるでしょうが、どういふ形で人を集めて指導するかどうかということが問題です。

三井 私かPTAの会長としてやろうとしてゐるのは、子供の手を通して子供とPTAの全会員にプリントで趣意書を出して、こういうことをやろうと思うからと、希望者を集めるやり方です。お金は区の教育委員会から出させようとしてやっている自主的なものですが、経費の点に困るから校費を使う。

司会 蛸山先生、現段階ではスモール・グループのリーダー養成が必要ではなにかといえるべきではないかというお話が進んでいるのですが、先生が前におっしゃっているように、いまにリーダー・ス・トリーニングのお考えなどもおもしろいと思いました。かたがた、蛸山 ますオ一点は既存の各種婦人団体について、そのリーダーになつてゐる人は相当年輩である。年令的にも思想的にも、いろいろの点で若い人と合はぬ点もあるでしょう。しかしリーダーシップという問題は相当の経験が必要としますし、人望などという説明のつかない問題もあると思う。今、にわかには若いリーダーがとって代るわけにはゆくまいと思うが、現在のリーダーといわれる人は次のゼネレーションに対してその仕事をゆずつてゆくという心がまえで次の人を養成したらどうかと考える。人向はいつも自分はいリーダーでありたい気持ちはあると思うが、いままでも同じ者かりーダーになつていてはやはりいろ／＼な点で団体

そのものの発展を阻害することになるのではないか。単に婦人の問題ばかりではない。政治家でも男子でもみんなそうです。どうかといつて対立的にその問題を解決してゆくのは健全な発達にならない。若い人に意識的にだんだん地位をゆずってゆくということではできないものかということです。

そういう若い人を五人なり十人なり、外国の婦人団体のマネーじの仕方とか他の団体との交渉の問題とかを視るために外国に留学させるという方法を行ったらどうかというのがオニ点です。

オニの点はリーダーシップ・トレーニングのための講習会を開いたかどうか。今行政機関がリーダーシップ・トレーニングにどういう役割があるかということが問題であつたのです。講習会の開催などはできると思う。リーダーシップの一番むずかしい問題は仲間の問題ではなくて、違ふ目的、立場をもっている団体との接触をどうするかということだと思ふ。小さい、一番底にある既存の団体を中心に、そこから出てゆくことは非常に結構なことで一番大切だと思ひますが、同時に小さい団体が、同じ地域にいくつかある場合はだんたん交渉をもつてそれが大きくなるという必要がある。その違ふ立場の人を話し合ができる。どういふ場というものが大抵なように思う。私が自分の周囲にあります問題を見ても、地域の社会をみても、取葉が違ひ、政治的な立場が違ふと全然交渉がむいのです。同じ共通の問題に對してもさういふ立場からお互に話し合つていない。さういふことではいけない。さういふ意味で、違ふ取葉の人、違ふ政治的立場の人でもどん／＼話し合ひができるような人をり

リーダーにつくらなければいけないのではないか。もっとも基本的な、一つの地域的な団体などをうまく作りあげられるようなそういうタイプの指導者を作りあげてゆくことが必要ではないか、それがないのが今、民主的社會を作る上に一番問題なので、いきおいこれを政治の世界にもつてきても、とても対立が深くなるだけで問題は解決しない。そういうゆき方をリードできる人選を作らなければというぬらいをもっているわけです。

司会　先程お話が、こうしたゼミナリーなりリーダーシップトレーニングの計画を実施する機関がどこにおかれるべきかということになっておりまして、官方等から助成金を出して、民間で自主的に進めたらということができておりましたが、次の議題の、組織上の問題とからめてやるべきだと思います。この助成金の問題につきましては、先程三井先生のレポートでも、民間団体に活用させることは悪くはないけれども、その際自主性の失われぬように、すべての団体が公平に扱われるように、団体の大きさ等によって助成される額が変わるにようにという三点があげられたと思いますが、組織上の問題として全国的な協議会など、婦人団体の組織としてはどういうものが望ましいか、また、可能かどうかにつきましては三井先生は可能性がないではないかという御意見だったと思います。また政治的中立という問題につきまして、党派的中立と違うことが問題なのである政治的中立ということ自体はあり得ないものではないか。そんな御報告がさっきあったわけですが、それらを含めて一つお話を願えたらと思います。

助成金については、それらの下よばず、実際の弊害とかは別といたしまして、法的にはどういう根據になりますので、よろうか。

三井 実際には法律にはないのですよ。憲法八十九条に違反するわけです。だから実質的には助成しても、名目は事業委託とか事業共催という形でやっています。

坂西 あれば社会教育法の十三条にこいよくしなれていますか。

渡辺 するのです。その金はやれないのです。

三井 あれ十三条の改正では運動競技にはいいということになつていよう。けれども一般団体の場合はやっぱり憲法によつて民間の団体に公の金をやうとするこはいいけないということになつていますね。

近上 この間、二週同ぐらい前ですが、文部省で婦人の社会教育の今後の問題について御意見を承りたいたう放談会があつたわけです。その時でも助成金の問題が出ました。

ことにあとこは婦人学級に年間一万八千円、のべ三十時間分四十時間分の助成金を出しているわけですが非常に無駄なことである。つまり助成金のために伸びる団体も伸びなくなつてしまふという意味のことだといふ出たわけです。出し方に問題があるのではなうか。そんなチヨツピリなものなら買つてくてもいい、というようになればいいが、その助成金を少しでも買わなければいけない、出すものなら千円のお金でも買つてこなければという気分があるわけですね。それから一つ車を越す場合に助成金が出なければ絶対にやらぬという考え方で、ぬ、つまりさぞい水がなければということ。それらが一寸でもあればそれに地方自治団体でもお金を出し、寄付金も集まる、という考え方が民間に横溢している。その証拠に一万円のお金でも出してくれればその金が集まる、報告する時には一人来ても三十人以上

要求しても通らないから、文部省から流れてくる省の涙のような事業委託の金がさとい水に
なつてそれが条例を作ったとか、それならば地方自治体の金も出そうということになる。そ
れでどうしてもこれが断ち切れぬい。

蠟山

それで地方自治体が抱き合せた額で相当の額になるのですか。

三井

大体一万八千円文部省から出ればその倍くらいになるはずです。

渡辺

ところが補助金制度で有名な農林省で、たゞ一つ補助金を出さぬのは生活改善の

仕事です。やっぱりこれもこの問題の時に考えてい、と思うが、あの生活改良普及員とい
うのはグルーブづくりです。組織員です。むしろ非常に重視されているのは組織活動だと思
う。あれなどはうまくやっています。

三井

あれはケース・ワーカーとして活動しているからい、ので、それをするには人間を

心やさぬかったら駄目だと思う。

蠟山

それから団体自体がある程度まで自主的にやってゆくということを前提にして、地

方団体、とくに教育委員会などがそれを盛り立てる方法というのはあるのではないうか。つ
まり、例えば施設を貸すとか、施設にともなう費用は教育委員会の方で出すなどとい
うことはするがあくまで会の運営、婦人学級そのものの経営については教育委員会はタツチ
ないというふうに、自主的にやらせることはできるでしょう。

三井

補助金を出せるように法律を改正しようという動きは常にありますよ。

蠟山

政府が法律によらざる団体に直接援助するのはよくないですから、問題はこういう

形で法律的に拘束のある団体にすることが、ということですね。学校法人まで、私立だからいけぬ、
い、というのは憲法の解釈が行き過ぎだと思ひますが、少くとも実態が法人みにあるもの
はい、が、ないものにまでいろいろやるというのは問題を起すのではないですか。

坂西 もうすでに地方に行きますといういろいろの問題がある。会長や役員を選ぶ時に補助金
を貰えそうぬ人ということを前提にしている。ことに婦人会、青年団はひどいですよ。

渡辺 法律でそれがやれることにされたら大変ですよ。いよいよもつてあの人なら買える
人だということになると、さうにひどくなる。

坂西 ある市では市長さんの奥さんが連絡協議会の会長さんだが、さうでないと金が出な
いからやつてもらっているとはっきり役員がいつてゐる。

渡辺 団体がたいてい数ではないので、それをまがらう力を自分でもたないということが残
念でたまらない。

三井 だって月会費五円という婦人会があるが、それすら集まらぬということですから。
渡辺 だからいかにくだらない仕事をしているかということですよ。活動が自分達の生活

にはぬかえつてくるのならば出しますよ。

司会 社会教育団体とは社会教育関係の事業をする団体ですね。それは、団体の内部の人
にやるだけではなく、講習会などオーブンにして地域の人につくすのがその団体の仕事では
ないのですか。それが今はメンバー・シップのための助成金が出ているところ、にゆが
みが強いでしょう。

坂西 アメリカの州立大学ではエキステンション・デベジションがあつて、そのカービ
スでやっていますね。

渡辺 日本では一般に学校を開放しないですよ

司会 イギリスでは国や地方公共団体から補助金をもらっている。社会教育団体でも補助
金をどんどん買っているが、これは社会教育の事業をする団体で、社会教育学校を作ったり
クラスを作ったりして誰にでもオープンに開いている。オーガナイズはしないで、そういう形
で政府からお金を貰つております。

渡辺 それは社会教育事業団体ですね。

三井 女子会館が経営しているあれです。私共の大学で専門講座を引受けてやりましたが、
地域の人から来たやつてくれと要求されてますが、コリゴリです。全然赤字ですから、

蠟山 私の方でも三年続けて、四年目ですが、今年やるかやらぬか問題です。残念だが
先生達に気の毒だし、やめようかどうか思案の最中です。

渡辺 労働省が学校に金を出すことはいっこうにさまたげないですか。

蠟山 できませんね。何等かの事業を委託した場合にはできませんようが、

渡辺 とれぬら文部省がやらなくて、事業委託を労働省がおやりになつて大学にエキステ
ンションおやりになつたら

蠟山 どういうことはできませんことはないですがね。

五上 なにが身の上相談的にどこに行けば自分達の必要とするものを身につけることがで

きるというようになるところが必要でしよう。それともう一つは婦人会が個人の力でやってゆけ
といつても無理ですが十人か二十人がたまって共同責任において人を出すという気持ちにな
つたら駄目です。

渡辺 今迄問題になつた大きい団体の先導者は大学講座なら集つてくる。この人達の再教
育には非常にいいのですよ。あの人は非常に权威主義者ですから、大学に行つて勉強して、
それで教へたということになるとう自分のやり方が今迄まづがたつたという反省が起つてくる
とそれと並行して地域でもう一つの条件整備の養成もやるという二本立ならいけますね。婦人
の地位講座ぐらひにしてやつていつたら面白いと思う。

蟬山 指導者教育をやることについては補助金の問題もあると思ひますがそれは、それは
どむずかしいかと思ふ。しかし實際婦人のリーダーを養成する施設というものが無いので
はないか、学校を出ただけではいけないのでしよう。婦人運動とか婦人問題とか、婦人につ
いての特育の問題がある。それを一般的な基礎的な知識の上にラស់しなるとリーダーにな
れないから、そういうリーダーをつまひ婦人会議で集まつてくれるようにならうと人達の中
から養成するといふ意味で、特別のトレーニング、養成機関を作ればいゝと思ふ。

渡辺 その問題からビミナルの問題になつたのです。

五上 婦人会議を来年あたりは全国婦人リーダー養成会議といふようにすることに、少し
変貌をきたしたら、あるいは会議はやつておいて、もう一つ別にリーダーのためのものを
やることはできないでしょうか。今迄は素朴な人といふのでリーダーは取違ひしたのですよ。

ジャーナリストがリーダー問題をとりあげて宣気すれば今までの頭でっかちのお飾りばかり
ダーというものが馬脚を出してきますよ。

西 やり方によつては官製といわれますよ。

司会 ですからさういふふうなリーダーになる トレーニングということは指導者養成と
訳すより技術援助という意味ですぬ。

渡辺 一般も抵抗を感じますよ。だから婦人の地位講座として小出しに婦人会議リーダー
ゼミナールぐういにしておけばいいのではないですか。

五上 特別の委員会を作つてそこに一応運営委員を作つて運営についてはおまかせしてこ
う形式をとればどうでしょう。

渡辺 それは名案ですぬ。労働省婦人少年局は非常に知性のある仕事をしてこられたので
すからこの機会にどうか実践活動をやつていたゞきたい。

最初モデル的なものでも結構ですから

蟬山 それで十人二十の婦人団体に委嘱して、将来リーダーにと思われぬ人を一人づつ

出してもらう。そういう人を集めて講習する。お互のゼミナーですから、いろいろ内容は協
議してきめることにして……、そういうことを契機として婦人団体の協議形式がいろいろは
っきり出るのではないですか。いろいろなことはいきなり持ち出してはならぬか協議できな
いから、お互の将来のリーダーを養成するためのこういう教育をする、そのためのゼミナ
ーだということをやればいゝのではないですか。

五上　として大なり小なり実践活動をしてきた人達ですから、いろいろな問題をもちてきていると思うから、吸収率が高いでしょう。通信教育のような形態でもとったらいいのではなかと思う。テレビジョンが盛んになってくると、ラジオの方は返着いたプログラムをふやす方がいい、から午前中のある時間は講座にするというやり方もだんぐりできるんじでも政治教育の講座をテキストを出して開放しています。そういうこともやろうと思えばやれるわけです。そうすれば、自分達の速ぶリーダーがどういうリーダーでなければならぬという希望を一般大衆がもてるようになると思う。現在では補助金や寄付金を取るために都合がい、という人を一般の人が適当だと信じていると思うのです。

司会　一つの基準を設定するということになりますね。似たようなものでは労働省で事業として部と一緒に夏季労働大学をやっていますが、いったお金の流れ方は可能ですね。あの講師の謝礼や施設費を労働省がもって受講生が受講料を出す。そういう立前をやっている。

坂西　高知や鳥取など地方でも大学とタイアップして連続した夏季大学をやっていると二つがあります。

五上　夏休みというのは効果をおげるのに都合がい、時期ですね。

坂西　農村地方は冬がいいですね。

司会　でも婦人週刊は四月ですが、何千人という人が応募するのですからどう時期を心配しなくともいいでしょう。

全国協議会について

司会 いゝ案が出たところを、時間もありませんので、最後に全国的協議会の問題をお話しあり下さい。先程三井さんは婦人団体が統合的ナショナル・カウンシルというものを作ることはできないといわれましたが、それがむづかしいかどうかという問題につきまゝて御意見をありましたら。

蜷山 共通の目的のために協議を必要とするものがあれば、いきなり協議会というものでなくとも、協議をするといういき方でゆけばいいのではないですか。

司会 するとどういったものが沢山できると想定しますか。

西 それは恒久的なものでなく、そのとき々の目的のために特別にできるといふこと、むしろ。

近上 どういうのは沢山できていゝと思う。またどこかで各種婦人団体の事務的な連絡の場所というものも、ごく自然な形でなるとできた方が国際同の交流の場合にもいいのではなか。例えば労働省でして下さるならそれもいゝと思う。労働省の婦人課に各団体が登録しておけば外国からインビテーションがきた時にも、お互に推薦しやすいし、外からみても日本は誰れに何をもらっていつていゝのかわからぬということもなくなると思う。思想的なつながりをもつ人達だけがある目的のためだけにゆくということになったらだん／＼せまくなつてしまふから、どこかにごく事務的な連絡機関をおくことが必要でしょう。また今いったように目的をもって協議会を作るのはいゝが、ある時期になつたらそれは解消して出直さ

なければならぬ、いつまでもあるような、ないような形でおくのはよくないめではなにか
司会 アジアのいろいろな国ではみんなナショナル・カウンスルを作つて、なんとか一本
になつています。アメリカだとそれぞれ群雄割拠しています。何うはそういう形ですが、今、日
本で全国協議会ができて、それが決定機関でなければ外国によい人を出すというようにな
らなければならぬ。

蜷山 協議会というものを今すぐ作るのではなくて、これは結局いつまでも官庁のお世話
を受けているのでは仕方がないという意味で、協議会が何をするかというよりも、お互に連
絡協議のできる恒久的なものを作るといふことを目標にして、それを作るためには、どうい
うふうに努力していくべきか、ということをしる、いろいろな方面がら高めていくべきであ
る。渡辺 ですからこのリーダーを養成する機関でも、教育などでそういう風運や気がまを
作らせていくということですね。

蜷山 とにかく英国でオーストラリアができました時に、婦人の労働大臣が出たでしよう。
あ、いうことが日本にいつできるかわからないです。今のところ……。普段からという
力量をもつて活動して、労働組合などから出た人ですからね。そういうリーダーを作るこ
とが大切です。だから若いリーダーと既存のリーダーの再教育をやらなければいけないと思
います。渡辺 しかし官庁が初めから看板をかけると反感がありますから、そこに自然に考
え方をもち、つてゆくような方向をうち出すことが必要でしよう。

司会 それではどういふことが結論ということでしょうか。

ありがとうございました。

協同活動についての研究会議記録

昭和三十三年八月一日 印刷

昭和三十三年八月一日 発行

発行者 労働省婦人少年局

印刷者 協立社荏原印刷所



